

サステナビリティレポート

2023

UDトラックス株式会社



UD TRUCKS



UDトラックスの今

トラックメーカーとして、80年を超える歴史を刻んできたUDトラックス。

時代が求める革新的な製品やサービスの開発・提供を通じて、トラック物流の現場を支え、豊かな社会の実現に取り組んでいます。

販売・サービスを展開する国と地域

59

日本で、世界で、広範なネットワークを通じたきめ細かなサービスを展開。世界で約8万台のトラックがテレマティクスでつながるなど、お客さまのビジネスを24時間365日サポートしています。

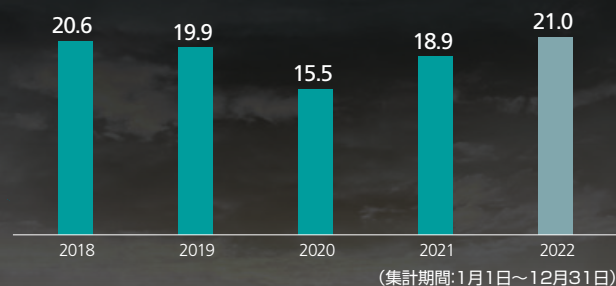


2022年の世界販売台数

20,988台

日本を中心に、アジア、アフリカ、オセアニアなどでUDトラックスの車両を販売。それぞれの市場のインフラや貨物特性に応じた物流ニーズに幅広く対応しています。

(単位:千台)



社歴

88年

1935年、ディーゼルエンジンの製造を目的に創立。社会のニーズに応え、新たな高みにチャレンジし続ける姿勢はUDトラックスのDNAとなっています。

従業員数

8,333名

国内 6,203名
海外 2,130名

人材の多様性を高め、個人が最大限に能力を発揮できる環境が企業の持続性につながるという方針のもと、世界で40カ国籍の従業員が働いています。

(2023年4月1日現在)

国内サービスネットワーク

168カ所

(独立資本販売会社を含む)

UD純正部品と純正整備により、お客さまの車両をベストなコンディションに保ち、稼働率の向上を実現しています。



小型車「カゼット」

中型車「コンドル」

大型車「クオン」

大型車「クエスター」

中型車「クローナー」

小型車「クーザー」

先進国市場向け

新興国市場向け

目次／編集方針

UDトラックスの今	1
トップメッセージ	3
私たちのパーパス	4
サステナビリティ活動報告	
●よりスマートな物流のために	7
●よりクリーンな地球のために	18
●より良い職場・地域のために	27
●企業のより持続可能な成長のために	36
UDトラックスについて	42

編集方針

UDトラックスは、社会課題の解決に貢献する価値創造や、環境、社会、ガバナンスの取り組みをステークホルダーの皆さまにご理解いただくために本レポートを発行しています。2023年版のレポートでは、当社のパーパスを全体構成の基軸に置き、事業の成長と社会への貢献の両立に向けた具体的な取り組みを紹介しています。

報告対象範囲

UDトラックス株式会社

報告対象期間

2022年度(2022年4月1日～2023年3月31日)

一部、それ以前の経緯やデータ、2023年度の活動、将来の活動予定も報告

発行年月

2023年11月



トップメッセージ

物流業界のお客さまと社会に貢献するために パーパスを起点とした取り組みを多様な従業員とともに推進しています。

UDトラックスが製品やサービスを提供しているトラック物流業界は、ドライバーの働く環境を改善しながら、輸送効率をいかに高めていくかが大きな課題となっています。コロナ禍を経て経済活動が回復するのに伴い貨物輸送需要が拡大するなか、ドライバー不足や環境規制への対応を迫られています。また、広く社会に目を向けると、資源枯渇や気候変動、人権、労働慣行など、人々の生活に関わる課題が顕在化しています。

こうしたなか、当社は、お客さまの課題、社会の課題の解決に事業を通じて貢献し、必要とされる存在であり続けるために、「Better Life」というパーパスを掲げています。私たちがめざすのは、ステークホルダーの皆さまとともに「日本の商用車メーカーにおけるサステナビリティリーダー」として成長していくことです。そして、その歩みを進める過程において、SDGsの達成やより豊かな社会の実現に貢献していきたいと考えています。

当社は、このパーパスのもと、「顧客満足度の向上

「地球温暖化防止」「働きがいのある職場づくり・地域貢献」「企業としての持続的な成長」の4つの重点領域を定め、各領域で活動を着実に進めています。顧客満足の領域では、大型トラック「クオン」の安全性や居住性、環境性能の向上に取り組んでおり、運転支援機能「UDアクティブステアリング」や最新の燃費基準を達成したエンジンの搭載をいち早く進めています。また、大型トラックの自動運転技術の確立に向けて、閉鎖空間での実証実験なども継続しています。

さらに、地球温暖化の防止にも注力しています。当社が所属するいすゞグループは「環境長期ビジョン2050」において、2050年までにCO₂排出ゼロの達成をめざしています。当社も調達部門や生産部門を中心に事業活動に伴うCO₂排出量の削減を進めており、再生可能エネルギーの導入やバリューチェーン全体でのCO₂排出量をモニタリングする仕組みの構築といった新たな取り組みも開始しています。

UDトラックスでは、世界で40カ国籍、8,000名を超える従業員が活躍しています。その従業員一人

ひとりとパーパスを共有するとともに、引き続きダイバーシティ&インクルージョンを推進し、多様な従業員が自身の能力を最大限に発揮できる職場環境づくりを進めることで、お客さまと社会の未来に貢献してまいります。

当社への変わらぬご支援をよろしくお願い申し上げます。



代表取締役社長

丸山 浩二

私たちのパーパス

パーパス

Better Life

時代が求めるトラックと
サービスを提供する企業として
UDトラックスは持続可能な
物流ソリューションを通じて人や地球に
よりよい暮らし「Better Life」を提供します

2025年になりたい姿

日本の商用車メーカーで
サステナビリティリーダーになる

「サステナビリティリーダー」
になるための4つの柱

よりスマートな
物流のために
顧客満足度の向上

よりクリーンな
地球のために
地球温暖化防止に向けて

より良い職場・
地域のために
働きがいのある職場・地域貢献

企業の
より持続可能な
成長のために

私たちUDトラックスは商用車メーカーとして、80年以上にわたり物流業界と共に歩んできました。
今、世界的な気候変動や新型コロナウイルスの影響で、社会のあり方や人々の価値観が大きく変化しています。
日本のトラック物流も、電子商取引の拡大や少子高齢化を背景とした人手不足の深刻化など、かつてない厳しい状況に直面しています。
目まぐるしく変化する時代において、UDトラックスがこれからもステークホルダーの皆さまと共に成長していくためには、
社会から必要とされる存在であり続けることが重要です。

こうした認識をもとに、私たちは、UDトラックスのパーパス(存在意義)を「Better Life」という言葉で表現しました。
「Better Life」は、私たちの事業活動すべての指針であると共に、すべてのステークホルダーに貢献していくという約束です。

UDトラックスは、このパーパスを念頭に、2025年には、持続可能な事業と社会を両立する企業——
「日本の商用車メーカーでサステナビリティリーダーになる」ことをめざします。

SUSTAINABLE
DEVELOPMENT GOALS

UDトラックスは、「Better Life」の取り組みを通じて、国連サミットで採択された「持続可能な開発目標(SDGs)」の実現に貢献します。

ステークホルダーとの対話を通じて

なりたい姿の実現には、お客さまやビジネスパートナー、従業員をはじめ、すべてのステークホルダーとの密なコミュニケーションが不可欠です。UDトラックスは、さまざまな機会を通じて各ステークホルダーとの対話に努め、その声を経営や事業活動、ESG(環境・社会・ガバナンス)各側面の活動に反映しています。



私たちのパーパス

「サステナビリティリーダー」になるための4つの柱

よりスマートな物流のために 顧客満足度の向上

物流業界は今、交通安全の確保や交通渋滞・環境問題の解決に加え、物流需要の高まりと競争激化によるコスト減・効率向上に対するプレッシャー、規制強化、ドライバー不足などさまざまな課題に直面しています。

こうした課題に応えるために、UDトラックスはドライバーの運転環境の向上に寄与する商品や環境負荷を低減する商品を提供すると共に、デジタルを駆使して、車両の稼働を支援しています。さらに、ドライバーや物流会社と連携しながら物流のバリューチェーンを進化させ、将来の課題解決にも貢献するトータルソリューションを提供し、持続可能な物流を実現していきます。

そのために、UDトラックスは、コネクティビティ、電動化、自動運転などの次世代技術を開発し、物流の効率化—スマートロジスティクス—の実現をめざしています。 [▶ P7へ](#)



よりクリーンな地球のために 地球温暖化防止に向けて

気候変動をはじめとした地球環境問題は、世界にとって今や喫緊の課題となっています。物流の根幹を担う企業として、UDトラックスはこうした課題に真正面から向き合い、未来に向けた解を提案すべく行動を開始しています。

UDトラックスは事業活動のすべてにおいて、脱炭素化、廃棄物ゼロをめざします。再生可能エネルギーを積極的に活用すると共に、自社の商品や事業活動だけでなくサプライヤーとの連携を通じてCO₂排出量の削減を推進し、バリューチェーン全体での環境負荷の低減に取り組みます。また、3R (Reduction, Reuse, Recycle) の考えをもとにした施策を導入し、廃棄物を削減します。 [▶ P18へ](#)



私たちのパーパス

より良い職場・地域のために 働きがいのある職場・地域貢献

持続可能な物流・社会を実現するためには、私たちUDトラックスの従業員一人ひとりが心身ともに健康な状態で日々の業務を遂行し、お客様や地域社会に貢献すること、自ら成長しながら会社の成長に貢献することを喜びとする企業文化が必要です。

そのためUDトラックスでは、従業員の多様性を尊重すると共に、従業員との対話、教育機会を通じて個々人の能力を最大限に発揮できる職場づくりに注力しています。また、ワークライフバランスに配慮したリモート勤務を拡充するなどして従業員の安全・健康の確保に尽力しています。

さらに、国内外の事業所では当社ならではの知見を活かして、地域の人々と共に交通安全教育、災害支援などに関わる取り組みを推進しています。

[▶ P27へ](#)



企業のより持続可能な成長のために

どんなに好ましい社会的インパクトをもたらす企業であっても、企業そのものが持続可能に成長していかななくては意味がありません。

UDトラックスは、「スマートロジスティクス」「環境」「人材・職場／地域社会」のサステナビリティへの取り組みを核に、業務効率や生産性の向上、デジタル化を通じたビジネスプロセスフォーメーション、コーポレートガバナンスの強化などを通じて持続的に成長することで、業界最高水準の業績をめざします。そして、得られた利益によって物流業界の価値創出に貢献すると共に、UDトラックスの成長のためにさまざまなステークホルダーの未来に再投資することで、事業の持続可能性をさらに高めていきます。

[▶ P36へ](#)



よりスマートな物流のために

よりクリーンな地球のために

より良い職場・地域のために

企業のより持続可能な成長のために

サステナビリティ活動報告

よりスマートな物流のために 顧客満足度の向上

UDトラックスはドライバーの運転環境の向上に寄与する商品や環境負荷を低減する商品を提供すると共に、デジタルを駆使して、車両の稼働を支援しています。さらに、ドライバーや物流会社と連携しながら物流のバリューチェーンを進化させ、将来の課題解決にも貢献するトータルソリューションを提供し、持続可能な物流を実現していきます。

そのために、UDトラックスは、コネクティビティ、電動化、自動運転などの次世代技術を開発し、物流の効率化—スマートロジスティクス—の実現をめざしています。



よりスマートな物流のために

よりクリーンな地球のために

より良い職場・地域のために

企業のより持続可能な成長のために

サステナビリティ活動報告

ドライバーの運転環境の向上

「UDアクティブステアリング」機能の搭載

近年の少子高齢化による労働人口の減少は物流業界にも大きな影響を及ぼしており、トラック物流を担うドライバーの不足が深刻な課題となっています。さらに、働き方改革関連法の施行によって、2024年4月以降はドライバー1人あたりの稼働時間が減るため、荷物量が輸送能力を超える事態も危惧されています。UDトラックでは、ドライバーとしての新規就労を支援するために、性別や年齢、運転の熟練度にかかわらず誰もが運転しやすいトラックづくりに取り組んでいます。

大型トラック「クオン」に搭載している「UDアクティブステアリング」は、ドライバーの疲労軽減と安全に寄与する機能です。従来の油圧式ステアリングギアボックス上部に新たに設置した電気モーターに付随する電子制御ユニット(ECU)が、1秒間に約2,000回の頻度でさまざまなセンサーから運転環境を感知し、走行方向とドライバーの意図を判断して、運転操作を積極的に支援します。このシステム制御によってステアリングの重さに適切なトルクを付加するため、ドライバーは、速度や積み荷、路面状況、横風などに左右されず、安定したハンドル操作を容易に行うことができます。2021年発表当初の搭載车型はCGとGKの2车型でしたが、2023年にはCD、CW、GWにも拡大しています。

UDアクティブステアリング搭載・非搭載車を比較した実

証実験では、搭載車のほうが、運転時のストレスの感じ方が軽く、過度な集中力を必要としないこと、また、より楽な腕の力で操作でき、とくに駐車時や路面の凹凸が激しい道路を走行する場合はその効果が高いことがわかりました。

[Web]

実証実験の結果

<https://www.udtrucks.com/japan/news-and-stories/news/20210701-ud-active-steering>



UDトラック
公式YouTube



試乗
インプレッション



UDアクティブ
ステアリングが
選ばれる理由

UDアクティブステアリングの5つの特長

● 低速走行時の軽いステアリング

重量物輸送時でも軽い力で操舵でき、疲労を大きく軽減。

● 高速走行時の直進安定性

スピードに応じてステアリングを適度な重さになるよう制御することで、直進走行時にドライバーの緊張感を軽減。

● 不整路走行時の路面状況の影響軽減

路面の凹凸から受ける影響を自動補正し、振動や意図しないステアリングの動きを軽減。

● 横風発生時の走行補正

横風の影響によるタイヤの微細な動きを素早く感知し、自動補正で直進走行をサポート。

● 後退・右左折時の自然なハンドル戻り

後退時や交差点での旋回時にステアリングを自動でニュートラル位置に復元。

[Web]

UDアクティブステアリングの詳細

<https://www.udtrucks.com/japan/about-us/innovation/udas>

よりスマートな物流のために

よりクリーンな地球のために

より良い職場・地域のために

企業のより持続可能な成長のために

サステナビリティ活動報告

お客さまの声

ステアリングが軽くスムーズに。 肩こりや腰痛もすっかりなくなりました。

水島臨海通運株式会社 田中 紀和 氏

私は「クオン」トラクターで主に近距離輸送を担当しています。初めてUDアクティブステアリングが搭載された「クオン」に乗った時は、「こんなに軽くて大丈夫？」と思うほど、ステアリングが軽く感じられました。でも運転してみると断然操作しやすい。狭いところではハンドルを切る回数が増えて、とくに牽引車だと後ろがついてくるまで大きくハンドルを切らないといけないので、軽くスムーズにステアリングを操れるのはありがたいです。しかも、自動でハンドルが真中に戻ってくるので、ハンドルをどこまで回したかを気にしなくてすみます。

急ぎの時は近距離でも高速道路を使うことがあります。ステアリングが軽いと「高速でも大丈夫かな？」と思

ますが、高速走行時にも安定しています。それでいて車線変更の時もスムーズで、運転中にステアリングの重さ軽さを意識することは全くありません。とても自然な操作感です。また、トラクターは路面の凹凸に敏感で、実際、車によってはすごく跳ねて、腰が痛くなるようなものもあります。「クオン」はUDアクティブステアリングで制御されているので、それも全くありません。高速道路でも走りやすいですね。

最近、肩こりや腰痛がなくなったのはUDアクティブステアリングの効果だと思っています。年上の同僚ドライバーが、「この車だったら北海道まで走れる」って言っていたのにもうなすけます。

【水島臨海通運株式会社 企業プロフィール】

岡山県倉敷市の水島コンビナートに隣接するエリアに本社を構え、周辺の石油精製、鉄鋼、自動車工業などの巨大工場に搬入される原材料や各工場で生産された製品の輸送を主に手がけています。保有車両数は100台を超え、そのうちの7割をトラクターが占めています。



よりスマートな物流のために

よりクリーンな地球のために

より良い職場・地域のために

企業のより持続可能な成長のために

サステナビリティ活動報告

大型トラック「クオン」の安全性能の向上

大型トラック「クオン」には、従来からトラフィックアイ(車間距離警報装置)、トラフィックアイクルーズ(車間距離制御装置)、トラフィックアイブレーキ(衝突被害軽減ブレーキ)、LDWS(車線逸脱警報装置)などの先進安全技術を搭載し、ドライバーの安全運転のサポートだけでなく、周囲の道路利用者の安全性も同時に確保すべく取り組んできました。また、ドライバーの疲労は事故原因の一つであることから、疲労を軽減する運転支援機能の充実を図っています。2021年には、UDアクティブステアリング(電子制御操舵システム)とLDP(車線逸脱抑制機能)を追加。さらに、トラフィックアイクルーズを低速でも追従走行ができるように進化させ、渋滞時におけるドライバーの負荷を軽減しています。

2022年型モデルには、ドライバーモニターとスマートBSIS(側方衝突警報装置)、スマートLCS(レーンチェンジサポート)を搭載しました。ドライバーモニターは、運転席のピラーに装備したカメラによって、ドライバーの向きや姿勢、開眼度を検知。脇見をしている、運転姿勢を崩している、目を閉じている、眠気を感じていると判断した場合は、マルチディスプレイへのポップアップ表示とブザー音で注意喚起します。また、スマートBSISは左右側方の自転車や障害物を、スマートLCSは車線変更時に左右側方の車両を検知し、車室内のピラーに搭載したインジケーターでドライバーに通知します。衝突の可能性がある場合はインジケーターが点滅し、ポップアップ表示とブザー音で警報を発します。

2019年11月に施行された国際基準では、車両総重量が8トン以上の貨物自動車について、BSIS(左側方)の搭載が義務づけられており、継続生産車には2024年5月からの適用が定められています。UDトラックは業界で最も早く対応し、BSIS搭載モデルの販売を始めるとともに、2023年からは機能を右側方にも拡大し、安全運転支援機能を強化しています。

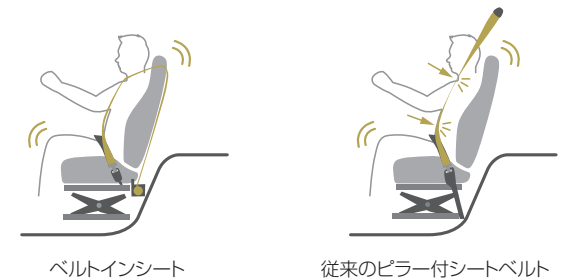
居住性の向上

トラックドライバーが1日の大半を過ごす車内の快適性を向上するため、疲労を軽減する高機能なシートを開発しています。

大型トラック「クオン」には、ベルトインシートを純正オプションとして用意しています。シートベルトがシート本体に固定されているため、シートサスペンションの動きと一体化。装着時の圧迫感だけでなく、走行中の揺れによるシートベルトの締め付け感や、擦れによるストレスも大幅に軽減します。

また、シート本体も、長距離トラック用のシートとして欧州で評価の高いイスリングハウゼン社の技術をベースに、日本のドライバーの体形やニーズに合わせて各部の硬さや生地の仕様などをUDトラックで独自に開発。長距離運転でも安全で疲れないドライビングポジションを維持できるように10の調整機能を内蔵し、体形や好みにジャストフィットするきめ細やかな調整を可能にしています。

さらに、シートヒーター(オプション装備)によって、寒い冬でも快適に過ごすことができます。



ベルトインシート

従来のピラー付シートベルト



- | | |
|-----------------|-----------------|
| ① 前後スライドレバー | ⑥ ランバーサポートスイッチ |
| ② シートリフター | ⑦ ショックアブソーバーレバー |
| ③ リクライニングレバー | ⑧ シートチルトレバー |
| ④ ダブルリクライニングレバー | ⑨ 座面前後スライドレバー |
| ⑤ アームレスト調整ダイヤル | ⑩ エアダンパバルブスイッチ |

よりスマートな物流のために

よりクリーンな地球のために

より良い職場・地域のために

企業のより持続可能な成長のために

サステナビリティ活動報告

(株)神戸製鋼所との レベル4※1自動運転の実証実験

物流業界の労働力不足が顕著になるなか、ドライバー不足による製造現場の操業への影響も懸念されています。UDトラックは、社会や物流業界の課題解決に貢献するため、2030年までの次世代技術ロードマップ「Fujin & Raijin(風神雷神)——ビジョン2030」を策定し、要となる自動化と電動化の分野に主眼を置き、大型トラックの特定用途における自動運転の実現や、電動駆動による新たなソリューションの提供に取り組んでいます。

その一環として、2019年に北海道において日本通運(株)、ホクレン農業協同組合連合会と共同で、レベル4技術を活用した自動運転トラックの実証実験を行いました。

さらに、2022年8月～10月にかけては、(株)神戸製鋼所とのパートナーシップのもと、同社加古川製鉄所でも実証実験を実施しました。同製鉄所内の運搬コースの一部のルートを使用した実証実験では、レベル4限定領域自動運転技術を搭載した大型トラック「クオン」に重さ約17トンのスラグを積み、複数の異なる地点へ自動搬送を行いました。所定位置での停止、搬送物の積み下ろしなど複雑な運行作業も自動で実施。自動運転・車両システムの信頼性ととも、搬送物の積み下ろしや搬送といった一連のオペレーションの自動化も可能であることを確認しました。



実証実験の目標

実際のオペレーション環境における自動運転技術の正確な運用、センサー類のロバスト性※2、自動運転および車両システムの信頼性の確認。

実証実験の成果

- 水たまりや段差、ぬかるみなどのある過酷な不整地、雨や霧などの天候下において、車両に組み込んだ自動運転システムが正しく作動することを確認。
- UDアクティブステアリングによって不整地でも高精度かつ安定した走行が可能であることを確認。
- 衛星からの信号が遮断されやすい環境においても、GNSS-RTK(高精度GPS)と3D-LiDAR(レーザーを用いたセンサー)による測位とナビゲーションに従い、記録した走行経路を車両が正確に走行することを実証。

※1 特定条件下における完全自動運転。

※2 構造物など外乱の影響によって変化することを阻止する性質。

よりスマートな物流のために

よりクリーンな地球のために

より良い職場・地域のために

企業のより持続可能な成長のために

サステナビリティ活動報告

「ホワイト物流」推進運動への参加

国土交通省では、トラック輸送における生産性の向上、物流の効率化と働きやすい労働環境の実現をめざして、2019年3月に「ホワイト物流」推進運動をスタートしました。

UDトラックはその趣旨に賛同し、自主行動宣言を行いました。当社は、物流に不可欠なトラックの製造企業であるだけでなく、物流サービスの利用者でもあることを自覚し、これからも持続可能な物流の実現に取り組んでいきます。

[Web]

「ホワイト物流」推進運動ポータルサイト

<https://white-logistics-movement.jp/>

[Web]

UDトラック自主行動宣言

<https://white-logistics-movement.jp/wp-content/themes/white-logistics/docs/declarations/O1771.pdf>

環境負荷低減

大型トラック「クオン」の環境性能の強化

UDトラックは、2004年に発売した初期型「クオン」に、トラックとしては世界初となる排出ガス浄化装置「尿素SCRシステム」を搭載しました。その後も、省燃費運転をサポートする12段電子制御式オートマチックトランスミッション「ESCOT(エスコット)」、一度走行した道路の勾配を記憶して先読み制御する「フォアトラック」、省燃費運転をガイドする「燃費コーチ」など多くの先進技術を採用するとともに、車両の空力設計やエンジン、ドライブラインなどの基幹技術も改良を重ね、燃費・環境性能の向上に取り組んできました。

2022年7月に発売した11リットルエンジン「GH11」搭載モデルはさらに進化し、多くの車種で国土交通省が定める「平成27年度重量車燃費基準」を+10%達成するとともに、2025年度を目標年度とする重量車の新しい燃費基準を満たしています。

また、2023年4月に発売した13リットルエンジン「GH13」を搭載した大型GW6x4トラクターも2025年度を目標年度とする重量車の新しい燃費基準を達成しています。大型GW6x4トラクターには、専用にチューニングした「ESCOT」を搭載しており、低回転域から圧倒的なパワーを発揮して重量物輸送を難なくこなしながらも省燃費運転を実現しています。

最新の大型トラック「クオン」に採用している主な環境技術

● 車両

一度走行した道路の勾配を記憶して先読みし、車速、エンジン回転数、補助ブレーキなどを自動制御する「フォアトラック」や、システムがドライバーの運転傾向を解析し省燃費運転に有効なアドバイスをマルチディスプレイで知らせる「燃費コーチ」といった省燃費運転サポート機能に加えて、エアダム一体型フロントバンパーや新デザインの導風板などの空力改善設計により、エネルギーロスの少ない走りに貢献しています。

● エンジン

▶ GH11

ユニットインジェクターとコモンレールシステム、その双方の特長を活かした燃料噴射システムによる効率的かつ緻密な燃料噴射制御と、燃料と空気のみキシングを促進する最新設計の燃焼室との相乗効果によって、省燃費、パワフル、クリーンを実現。さらに、省燃費性と長寿命化を両立する低粘度エンジンオイルも採用しています。

▶ GH13

GH11で実績を積み上げた先進の燃焼技術に加え、燃費向上を支えるボールベアリング式のターボチャージャーや、低粘度エンジンオイルをはじめとする各種の摩擦低減技術の採用により、経済的な運転に貢献しています。

● ESCOT-VI、VII(エスコット・シックス、セブン)

12段電子制御式オートマチックトランスミッションによって、熟練ドライバーと同等の変速操作を再現し、個人差による燃費のばらつきを抑制しています。

よりスマートな物流のために

よりクリーンな地球のために

より良い職場・地域のために

企業のより持続可能な成長のために

サステナビリティ活動報告

欧州の自動車排出ガス規制「ユーロ5」対応 新興国向け新型モデルの発売

UDトラックスは、2021年9月にEUが定める同圏内統一の自動車排出ガス規制であるユーロ5に対応した新興国向け大型トラック「クエスター」と中型トラック「クローナー」の新型モデルを海外の主要市場で発売しました。これらのモデルは、車両の稼働率や燃費効率のさらなる向上、総保有コストの最適化、そして環境負荷の低減を実現しています。

新興国では、工業化と経済成長に伴い深刻化する大気汚染や、世界的に注目が高まる地球温暖化問題に対応するため、より厳しい排出ガス規制の導入を急いでいます。ユーロ5モデルは、各国・地域で厳格化される各種政策を念頭に、制度リスクの低減と環境課題への対応を両立させました。

ユーロ5基準では、ユーロ4基準比で43%のNOx排出量の削減が求められています。ユーロ5対応モデルは、当社が世界で初めて導入し高い信頼を得ている尿素SCRシステムを搭載することで同規制をクリアするとともに、燃費性能を大幅に向上させています。また、リアルタイムの「燃費コーチ」機能を加えたインストルメントパネルを採用し、ドライバーが燃費改善につながる最適な運転方法を確認できるようにしています。

当社の主要拠点の一つである南アフリカでは、2023年5月、同国最大規模の農業機械見本市「ナンポ・ハーベストディ」に出展し、ユーロ5モデルを紹介しました。同国では近年、電力不足による停電が各産業に深刻な影響を及ぼしており、農業分野でも生産者が品質を維持しながら安定的かつ効率的に作物を市場に供給していくうえでの大

きな課題となっています。このため、ユーロ5モデルの省燃費性と環境負荷低減技術、稼働率向上のためのさまざまなソリューションに、多くのお客さまからの関心が集まりました。



写真左：クローナー、右：クエスター

よりスマートな物流のために

よりクリーンな地球のために

より良い職場・地域のために

企業のより持続可能な成長のために

サステナビリティ活動報告

稼働率の向上

DXによるアフターサービス業務の効率化

UDトラックは、お客さまが使いやすいワンストップショップサービスの提供をめざして、CRM(顧客関係管理)とERP(統合基幹業務システム)を統合した新システム「UDダイナミクス」を開発し、2022年4月から全国のサービス拠点に順次導入しています。

このUDダイナミクスを活用し、アフターマーケットにおける業務プロセスを変革することで、待機時間の低減や整備キャパシティの改善、リアルタイム情報の把握、路上での故障に対するロードサポートの効率化など、お客さまの生産性と稼働率の向上を図っています。また今後は、UDダイナミクスを基盤にアフターマーケットビジネス全体をカバーする総合プラットフォームを構築し、車両の状態や各サービス拠点の稼働状況をリアルタイムで把握できるようにするなど、データドリブンなお客さま対応を促進することで、サービス品質のさらなる改善とお客さま満足度の向上につなげていきます。

車両テレマティクスデータの活用による 車両停止時間の短縮

日本の物流において、トラックによる輸送はトンベースで90%以上を占めています。お客様のトラックのコンディションをより良い状態に保ち、安定した稼働を支えることは、トラックメーカーとして、お客さまへの責任であると同時に社会への責任でもあります。

UDトラックは、独自のテレマティクスでお客さまの安定稼働をサポートしています。これは、車両に搭載しているテレマティクスシステムを通じてエンジンなどの車両コンディションや、燃費、位置といった情報を、UDトラックがリアルタイムで集約・分析して、「遠隔車両診断」による「安心稼働サポート」として提供するものです。万一のトラブル発生時にもいち早く車両の状態を把握して最寄りのサービス拠点へ案内し、車両停止時間を大幅に短縮します。

また、「省燃費レポート」「安全運転レポート」を提供することにより省燃費運転を支援しています。

さらに、車両から収集した各種データを活用して「予防整備」の強化にも注力しています。この取り組みは、将来の車両不調につながる予兆をモニタリングし、不調が発生する前に予防的に整備するもので、車両の突発的な不調を低減することで稼働時間の最大化を図っています。

UDロードサポートによる迅速な対応

UDロードサポートは、UDトラックが運営するコールセンターです。専任のコーディネーターが窓口となり、24時間365日、ドライバーからのお問い合わせに直接対応しています。走行中の車両に不具合や故障が発生した際には、テレマティクスを介して即時に送信される情報をもとに「遠隔車両診断」を実施。メカニックと共有することで、トラブルの解決までワンストップでお客さまを効率的にサポートしています。

また、出張修理が必要な場合は、最寄りのサービス拠点からメカニックがスピーディーに駆けつけて復旧にあたります。コールセンタースタッフは、ドライバーのもとにメカニックを派遣するとともに、ドライバーに安心していただけるようメカニックの到着予定時刻など必要な情報を随時連絡し、予期せぬ車両トラブルに迅速に対応しています。

よりスマートな物流のために

よりクリーンな地球のために

より良い職場・地域のために

企業のより持続可能な成長のために

サステナビリティ活動報告

品質

ISO9001 認証の取得

UDトラックスでは、品質マネジメントシステムの国際規格であるISO9001を導入しています。生産部門では2002年度に、開発部門では2016年度に同認証を取得し、2018年度にはISO9001:2015年改訂規格への移行を完了しています。また、2022年度には調達部門へ認証範囲を拡大し、品質マネジメントシステムの導入が有効な部門において認証を取得するよう改善を続けています。

海外サイトにおいても、タイのバンコク工場、南アフリカのプレトリア工場などで認証を取得しており、包括的にPDCAサイクルを回していくことで、継続的な品質の向上につなげています。



品質マネジメントシステムに対する 内部監査／外部審査

品質マネジメントシステムが適切に機能していることをチェックするために、社内規定に基づく内部監査を毎年定期的に実施しています。監査では、内部監査資格をもつ委員で構成する監査チームが、マネジメントシステムの運用

状況、社内基準、関連法規制の遵守状況などを確認・評価しています。

また同様に、外部機関による審査も毎年実施し、ISOの認証を継続しています。

品質問題発生時の迅速な対応

品質問題の発生時にお客さまへの影響を最小限にするため、品質保証部門が中心となって、開発、生産、アフターマーケット部門とともに、「クオリティ・アクション・グループ」を設置・運営しています。同グループには、本社で対策を講じるチーム、サービス拠点やお客さま先など現場にも出向く技術専門チーム、支社に常駐して現地で直接対応にあたるチームを設けており、各チームが機能的に連携することで、問題の特定から対策の実行までを迅速かつ正確に行っています。

こうした部門横断の取り組みによって、関係者全員で品質情報をタイムリーに共有するとともに、スムーズな対応につなげ、お客さま満足度の向上に努めています。

製品開発での取り組み

開発部門では、UDトラックス独自の品質評価基準を設けています。開発段階ごとにチェックポイントを設定し、性能、機能、耐久信頼性など各品質項目の目標達成状況を確認しています。このプロセスの構築により、品質の向上と同時に開発期間の短縮も実現しています。

生産での取り組み

生産部門では、国内外を問わずすべての工場において、UDトラックス独自の生産・品質管理プロセスに則り、目標とする品質レベルの維持に努めています。

製造現場での品質管理では、優れた技能をもつ人による取り組みが重要な要素であることから、「モノづくりは人づくり」をコンセプトに人材の育成を推進。「品質第一」の考えのもとお客さま満足度の高い製品の生産に取り組んでいます。また、製造現場の各従業員は、QC（品質管理）サークル改善活動に積極的に参加し、多くの「ポカヨケ^{*1}」や「からくり改善^{*2}」を導入しています。一般財団法人日本科学技術連盟が主催するQCサークル大会に当社のQCサークルも毎年出場しており、2021年には全日本選抜QCサークル大会で銀賞を受賞するなど成果を上げています。

同時に、次世代製品に求められる品質管理を実現し、魅力ある仕様を提供していくため、最新のデジタル技術を取り入れた先進的な生産システムの開発も加速しています。例えば、製造品質や設備状態の維持・管理にリアルタイム監視システムを導入しているほか、従業員同士のコミュニケーションを円滑化する専用アプリを導入し、チームワークの向上を図ることで活動のレベルアップにつなげています。

- ※1 作業ミスを物理的に防止するため製造ラインに設置した仕組みや装置。
- ※2 そこで働く人が困りごとや課題を自ら見つけ、自然エネルギーや、歯車やてこの原理など簡単な機構・仕組みを用い、環境負荷を抑えてコストで改善する取り組み。

よりスマートな物流のために

よりクリーンな地球のために

より良い職場・地域のために

企業のより持続可能な成長のために

サステナビリティ活動報告

アフターサービスでの取り組み

サービス拠点で車両整備やパーツ手配、フロント業務などのアフターサービスに携わるスタッフのスキルアップを柱にサービス品質の確保・向上に努めています。

日本国内では毎年、全国のアフターサービススタッフが最新の製品品質と技術サポート案件に関わる情報を共有できるよう「アップタイム・カンファレンス」を開催しています。

このイベントにはアフターサービスの最前線で働くスタッフだけでなく、本社から開発部門、生産部門、調達部門、物流部門のメンバーも参加し、さまざまな角度から情報の共有と意見交換を行っています。

届出件数

	2020年度		2021年度		2022年1月～3月		2022年4月～2023年3月	
	UDトラックス	ボルボトラック	UDトラックス	ボルボトラック	UDトラックス	ボルボトラック	UDトラックス	ボルボトラック
リコール	8件	1件	17件	1件	3件	0件	4件	1件
改善対策	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件
サービスキャンペーン	0件	1件	3件	3件	1件	0件	5件	2件

集計期間

2021年度まで:各年1月～12月の件数を集計

2022年度:会計期間変更に伴う調整期間として2022年1月～3月と2022年4月～2023年3月に分けて集計

また、世界中のアフターサービススタッフの技能向上を目的とした技能競技会「UDトラックス現場チャレンジ」を2年ごとに実施しています。約半年をかけて行われるこの競技会では、実際のサービス現場で起こり得る実践的な課題が学科と実技で与えられ、参加者は課題への取り組みを通じて新たな知識や技術を習得しています。2022年は、日本を含め世界中から2,161名が参加しました。

市場措置

(リコール、改善対策、サービスキャンペーン)

お客さまの安全や環境に影響を及ぼす不具合が発生した場合には、国土交通省のガイドラインに基づき、速やかに情報を開示しています。

よりスマートな物流のために

よりグリーンな地球のために

より良い職場・地域のために

企業のより持続可能な成長のために

サステナビリティ活動報告

お客さまサポート

エコドライブ講習会／安全運転講習会

2007年度からトラックドライバーを対象に「エコドライブ講習会」と「安全運転講習会」を開催しています。

「エコドライブ講習会」では、実際のトラックを使った運転操作や減速運転などの実技を通じて、省燃費運転につながる知識と技術の習得をめざしています。とくに、テレマティクスを活用した講習会では、ギアチェンジや車速などの項目ごとに運転の評価ができるため、客観的に運転の癖を把握し、効果的な対策ができると好評をいただいています。

また、「安全運転講習会」ではお客さまの要望に応じて、「運輸安全マネジメント」「飲酒運転の危険性」「トラックの死角」「事故事例と防止策」「危険回避」「ヒューマンエラー」などのなかからテーマを選定し、学んだ知識をすぐに実践できるよう、座学と実技を組み合わせたプログラム

実施回数・参加者数

	2020年度		2021年度		2022年度	
	実施回数	参加者数	実施回数	参加者数	実施回数	参加者数
エコドライブ講習会	10回	288名	29回	464名	67回	1,577名
安全運転講習会	46回	2,053名	119回	7,012名	129回	2,961名

集計期間

2020年度、2021年度:各年1月1日～12月31日

2022年度:

・実施回数 2022年4月1日～2023年3月31日

・参加者数 2022年7月1日～2023年3月31日(2022年4月1日～6月30日は集計外)

を提供しています。実際の事故車両に取り付けられていたドライブレコーダーで撮影された映像を使って事故を疑似体験していただくなど、お客さまが事故を自分自身のこととして捉えられるよう工夫しています。

なお2020年以降のコロナ禍においては、グループ討議や集団演習を控えたり、オンラインによる遠隔講習会形式を取り入れたりするなど、感染防止策を講じながら実施しています。

お客さま相談室

お客さまからのお問い合わせやご意見、ご要望にフリーコールで対応する「お客さま相談室」を設置しています。想定されるお問い合わせごとにマニュアルを整備し、スムーズな対応に努めています。また、迅速かつ適切に対応するために、社内フローなどを適宜見直しています。2022年4月1日～2023年3月31日までの総受付件数は3,952件(2021年同期:3,925件)でした。

独立系販売会社とのパートナーシップ

情報共有や技能支援を通じたより良い関係の構築

UDトラックスは、自社直系ディーラーのほかに、独立系ディーラー6社32拠点と連携して製品やサービスをお客さまに提供しています。お客さま満足度の向上を共通目標として、より良い関係の構築に取り組んでいます。

この一環として、各ディーラーの社長や取締役など経営層を対象に当社の経営方針や主要な業界動向などを共有する「経営連絡会」を開催。このほかにも、ディーラー向け情報誌を毎月発行するとともに、商品に関する説明会を開催するなど、タイムリーな情報提供によって当社の事業活動や商品について理解を深めていただけるように努めています。

また、アフターサービス品質の向上を目的に当社が企画・開催する研修やイベントにも、直系、独立系の垣根なく参加を奨励し、より高い技術や最新知識の習得を支援しています。

アフターサービスに関わるスタッフを対象とした研修会「アップタイム・カンファレンス」や技能競技会「UDトラックス現場チャレンジ」(P16参照)には独立系ディーラーからも毎回多くのスタッフが参加しています。

よりスマートな物流のために

よりクリーンな地球のために

より良い職場・地域のために

企業のより持続可能な成長のために

サステナビリティ活動報告

よりクリーンな地球のために 地球温暖化防止に向けて

UDトラックスは事業活動のすべてにおいて、脱炭素化、廃棄物ゼロをめざします。

再生可能エネルギーを積極的に活用すると共に、自社の商品や事業活動だけでなくサプライヤーとの連携を通じてCO₂排出量の削減を推進し、バリューチェーン全体での環境負荷の低減に取り組みます。また、3R (Reduction、Reuse、Recycle) の考えをもとにした施策を導入し、廃棄物を削減します。

よりスマートな物流のために

よりクリーンな地球のために

より良い職場・地域のために

企業のより持続可能な成長のために

サステナビリティ活動報告

脱炭素化

事業活動に伴うCO₂排出量の削減

UDトラックスは、脱炭素化への取り組みをパーパスに基づく重要課題の一つに掲げ、事業活動全体を通じてCO₂排出量の削減を積極的に推進しています。とくに、エネルギー使用量の大きい工場においては、「エネルギー使用量を減らすことでCO₂を削減する」という考え方を基本に、生産拠点・施設の集約や生産工程の見直しといった効率化を進め成果を上げてきました。

この取り組みを加速するため、上尾工場では、グリーン電力の購入や、照明のLED化、人感センサーの設置による自動消灯の徹底、生産の効率化、フォークリフトなど運搬車両の電動化と台数の削減、設備の計画的な更新などを進めています。また、海外では、タイのバンコク工場に太陽光発電パネルを設置し運用を開始したのに続き、他工場でも導入の検討を進めています。

今後は、いすゞグループの一員として「いすゞ環境長期ビジョン2050」を実現するために、2030年までのロードマップ「2030環境ロードマップ」の着実な遂行をめざします。

グリーン電力の購入

上尾工場では、2019年5月より再生可能エネルギー由来の電力を一部使用しています。2022年度も、再生可能エネルギー由来の電力をより積極的に活用することとした

ため、通常電力を購入した場合と比べ1,060トンのCO₂排出を削減しました。

また、上尾工場に隣接するトレーニングセンターでは、2022年9月から使用する電気をすべてCO₂排出ゼロの電気契約にしています。

照明のLED化

2020年度～2022年度までに、上尾本社・工場敷地内全体で照明器具延べ16,000灯をLED化しました。また、照明の配置も最適化することで、延べ1,500灯を削減しました。これにより、CO₂排出量の削減と同時に交換サイクルの延長による廃棄物の削減が可能になります。

ボイラーの更新

2022年12月に上尾工場のボイラー3基を更新しました。次年度以降、ボイラーの使用に伴うエネルギー使用量が削減される見込みです。

太陽光パネルの設置

タイのバンコク工場では、2022年6月に工場建屋の屋根に太陽光発電パネルを設置しました。これによって同工場における電力使用量の約25%を再生可能エネルギーでカバーすることが可能になり、年間の発電量は1,477MWh、約700トンのCO₂排出を削減する計画です。



遮熱対策によるエネルギー削減

2022年4月に、国内4カ所の部品センターのなかで最も規模の大きい群馬部品センターにおいて屋根と外壁の遮熱塗装を完了しました。これにより、夏季の屋内の最高気温が施工前と比較して最大10.5度低下し、電力使用量を年間で10%削減しました。また、平均気温を30度以下で維持できるため、作業環境の改善にもつながっています。



よりスマートな物流のために

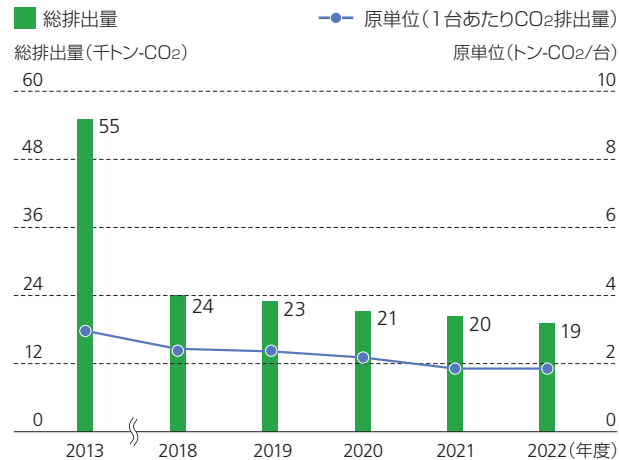
よりクリーンな地球のために

より良い職場・地域のために

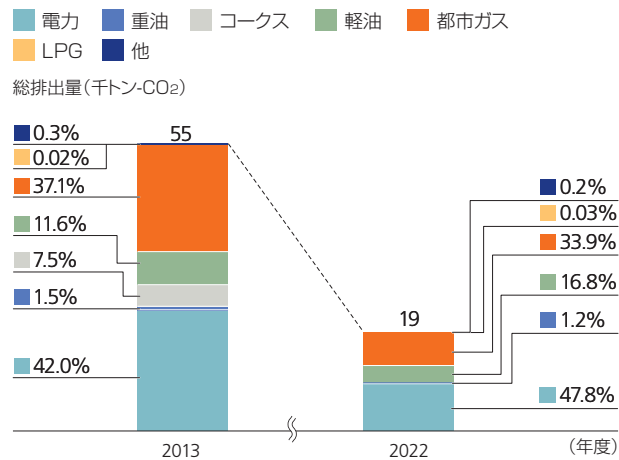
企業のより持続可能な成長のために

サステナビリティ活動報告

CO₂総排出量



エネルギー別CO₂排出量



集計範囲

上尾工場と群馬部品センター（2013年度は他工場のデータを含む）

製品ライフサイクルでのCO₂排出量の削減

全産業に占める営業用トラックからのCO₂排出量の割合は、国土交通省によると約7%と算出されている一方、政府のグリーン成長戦略に基づきさらなる削減が求められています。

UDトラックスでは、製品の原材料採取から廃棄・リサイクルに至るライフサイクル全体を通じてCO₂排出量の評価と削減に取り組んでいます。

LCA（ライフサイクルアセスメント）

2021年に発足した一般社団法人日本自動車工業会のLCA分科会のメンバーとして、自動車業界におけるLCA評価手法（計算手法など）のガイドライン策定の検討に参加しています。

また社内でも組織横断的なメンバーで構成する「LCAワーキンググループ」を立ち上げ定期的に会議を開き、現状の確認・共有やバウンダリーの特定、数値の集計・解析、課題の提起・解決などを行っています。

ライフサイクル各段階での主なCO₂排出量削減対策

● 開発・設計

製品ライフサイクルのなかで多くのCO₂を排出するのはお客さま先での使用段階であるため、その削減につながる先進技術の開発に注力しています。

▶ 燃料消費を抑制する技術の開発

トラックの燃料消費は、運送事業者にとって経営上の大きな負担となるだけでなく、地球温暖化に及ぼす影響が大

きいCO₂排出の主な要因ともなります。

そこで、UDトラックスでは燃料消費の抑制を環境活動における最重要課題の一つと位置づけ、長年にわたって着実に改善を図ってきました。国内では2025年度を目標年度とする新たな重量車燃費基準が2019年に施行され、従来の平成27（2015）年度重量車燃費基準と比較して約13.4%基準が強化されました。当社では、この新基準を満たした11リットルエンジン搭載の大型トラック「クオン」を目標年度に先行して2022年7月に発売したの続き、2023年4月には13リットルエンジンを搭載した大型GW 6x4トラクターなども発売し、ラインアップを拡充しました。

関連項目 大型トラック「クオン」の環境性能の強化（P12参照）



燃費改善に貢献するクオンのエンジン（上:11リットル、下:13リットル）

よりスマートな物流のために

よりクリーンな地球のために

より良い職場・地域のために

企業のより持続可能な成長のために

サステナビリティ活動報告

大型トラック「クオン」に採用している主な技術

車両	<ul style="list-style-type: none"> ● 燃費コーチ(省燃費運転をガイド) ● フォアトラック(道路勾配を記憶し先読み制御) ● 空気抵抗の低減(エアダム一体型フロントバンパー、新デザインの導風板など)
エンジン	<ul style="list-style-type: none"> ● 新形状ピストン燃焼室 ● 多段式燃料噴射システム ● 電子制御可変式オイルポンプ ● 省燃費エンジンオイル
駆動系	<ul style="list-style-type: none"> ● 直結段トランスミッション ● ECOモード

▶ 次世代技術の開発

UDトラックスは、2018年に発表した次世代技術ロードマップ「Fujin & Raijin(風神雷神)——ビジョン2030」で「2030年までに電動車を量産化する」という目標を掲げ、このロードマップに則った製品開発を推進しています。

ハイブリッド自動車(HEV)、バッテリー電気自動車(BEV)、燃料電池自動車(FCEV)などの電動車に加えて、脱炭素燃料を使用する内燃機関に関する研究も加速。各国・地域の事業環境や環境規制、エネルギー関連インフラの整備状況などの変化に対処しうる道筋を備えるため、脱炭素化に向けた多様なソリューションの検討を進めています。

● 物流

サプライヤーから上尾、タイ、南アフリカの生産拠点への物流や、完成車やアフターマーケット部品の輸送におけるCO₂排出量の削減に取り組んでいます。

2021年にボルボ・グループを離れたことに伴い、UDトラックスとして独自の物流ネットワークの構築を進め、海外では、中国、インド、タイにクロスドック*を設置しています。同時に、トラックやコンテナの充填率を上げることで、年間のトラックやコンテナの使用数を削減しました。また、アラブ首長国連邦ドバイのアフターマーケット部品倉庫を、いすゞグループが運営する物流倉庫へ統合しました。

さらに日本国内でも、空港への輸出部品の輸送や、九州地区部品センターへの部品輸送において、いすゞグループとの共同輸送を開始しています。

これらの取り組みにより、エネルギー使用量の削減と輸送効率の向上を推進しています。

*従来の物流センターのように大量の在庫を保有するのではなく、多品種の製品を荷受けし、需要に応じて迅速に仕分け・発送する機能を持つ物流拠点。

● 販売・アフターマーケット

省燃費運転につながる知識と技術の習得を支援する「エコドライブ講習会」を全国各地のトラックドライバーを対象に継続的に実施しています。

関連項目 エコドライブ講習会／安全運転講習会(P17参照)

よりスマートな物流のために

よりクリーンな地球のために

より良い職場・地域のために

企業のより持続可能な成長のために

サステナビリティ活動報告

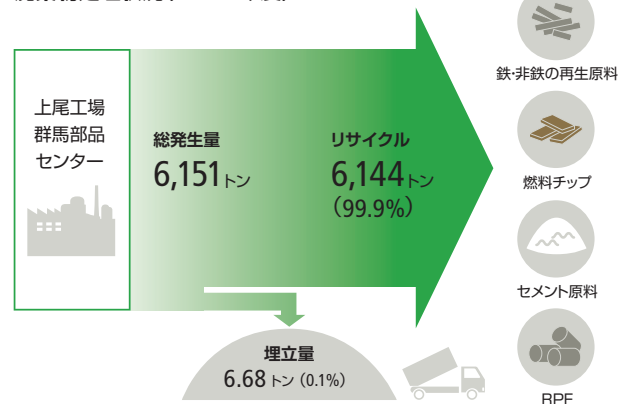
廃棄物削減

廃棄物削減への取り組み

製品ライフサイクルで最も多く廃棄物が発生するのは、サービス拠点での製品廃棄時です。そのためUDトラックスでは廃棄物管理体制を構築し、2014年度から廃棄物分別管理に関する社内処理基準を全サービス拠点に導入しています。各拠点では、これに従って専用の設備を設置し、廃棄物を細かく分別しています。また、サービス拠点へ発送するパーツの梱包容器のリターナブル化を進め、各サービス拠点に再利用を促すとともに、部品梱包資材の簡素化による廃棄物削減の取り組みもあわせて進めています。

開発段階においては、3分割バンパーや、レンズとLEDユニットが単体交換可能な易解体性ヘッドランプなど、解

廃棄物処理状況(2022年度)



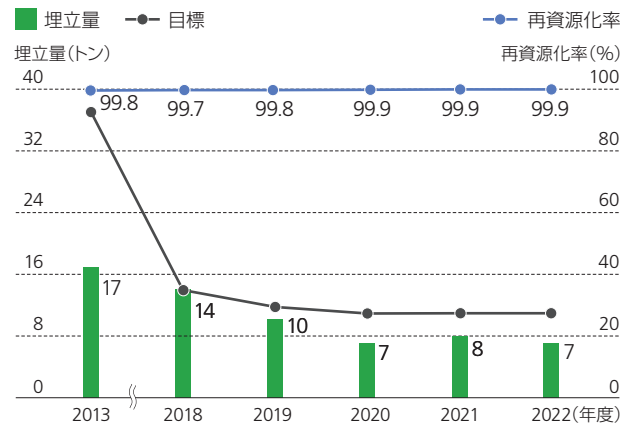
体のしやすさや資源の有効利用を考慮した設計を行っています。

生産段階では、廃棄物最終処分量の削減を目標に、廃棄物の発生抑制とリサイクルに取り組んでおり、リサイクル率も99%以上を維持しています。

UDトラックスでは、こうした廃棄物管理体制の強化を目的に、2015年4月から廃棄物処理の専門会社とコンサルタント契約を締結しています。信頼性の高い処理会社の選定や行政への届出、帳票(マニフェスト)管理、処分量集計など、廃棄物管理に関わるコンプライアンスの徹底を図っています。

また、リサイクルステーションを設置し、従業員啓発を行うなど、全社でゴミの分別に取り組んでいます。

廃棄物最終処分量(埋立量)／再資源化率



集計範囲

上尾工場と群馬部品センター(2013年度は他工場のデータを含む)

自動車リサイクル法に基づく取り組み

日本で2005年に施行された自動車リサイクル法(使用済自動車の再資源化等に関する法律)を遵守し、使用済み自動車から発生する指定3品目(自動車シュレッダーダスト(ASR)、エアバッグ類、フロン類)を回収して、適正にリサイクル処理しています。

Web

自動車リサイクル料金および再資源化の実績

●自動車リサイクル料金

<https://www.udtrucks.com/japan/about-us/automobile-recycle-law/recycle-fee>

●再資源化等の実績

<https://www.udtrucks.com/japan/about-us/automobile-recycle-law/recycling-activity>

よりスマートな物流のために

よりクリーンな地球のために

より良い職場・地域のために

企業のより持続可能な成長のために

サステナビリティ活動報告

水資源・大気保全

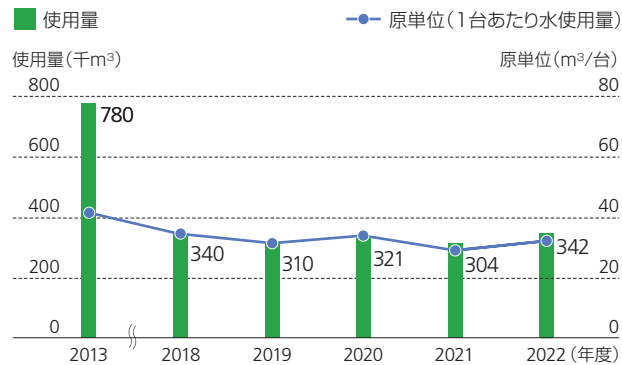
水使用量の削減と排水・排気の適正管理

UDトラックスは、水使用量、排水や排気の適正管理に継続的に取り組んでいます。

具体的には、設備の点検や清掃、漏水調査、漏水発見時の速やかな補修などによって、過去に削減してきた水使用量を適正レベルに維持できるよう努めています。

排水・排気については、法規制値よりも厳しい独自の運用管理値を設定し、設備の清掃やメンテナンスを計画的かつ確実に実施することで、周辺水域と大気汚染防止を徹底しています。

水使用量



集計範囲

上尾工場と群馬部品センター(2013年度は他工場のデータを含む)

環境測定データ(上尾工場)

水質	測定項目	単位	規制値	最大	最小	平均
	排水量	m³/日	—	8,594	0	935
pH	—	5.8~8.6	7.6	6.9	7.3	
BOD(生物化学的酸素要求量)	mg/L	25(20)	2.8	1.3	2.0	
COD(化学的酸素要求量)	mg/L	160(120)	5.8	2.8	4.0	
SS(懸濁物質)	mg/L	60(50)	<5	<5	<5	
N-Hex(鉱油)	mg/L	5	<2.5	<2.5	<2.5	
リン	mg/L	8	0.5	<0.1	0.3	
窒素	mg/L	120(60)	3.5	1.2	2.0	
亜鉛	mg/L	2	0.2	<0.1	0.125	
フッ素および化合物	mg/L	8	<0.8	<0.8	<0.8	

大気	施設名	測定項目	単位	規制値	最大	最小	平均
	乾燥炉1		NOx(窒素酸化物)	ppm	230	19	13
ばいじん			g/m³N	0.2	0.003	<0.001	0.001

環境測定データ(群馬部品センター)

水質	測定項目	単位	規制値	最大	最小	平均
	排水量	m³/日	—	13.9	0	3.8
pH	—	5.8~8.6	7.4	6.5	6.8	
BOD(生物化学的酸素要求量)	mg/L	80	7.8	3.6	5.9	
SS(懸濁物質)	mg/L	20	9.0	1.0	3.7	
N-Hex(鉱油)	mg/L	1	<0.5	<0.5	<0.5	

大気	施設名	測定項目	単位	規制値	最大	最小	平均
	ボイラー重油 No.1、2、3		NOx(窒素酸化物)	ppm	180	61	47
ばいじん			g/m³N	0.2	<0.001	<0.001	<0.001

規制値の()内は日間平均

よりスマートな物流のために

よりグリーンな地球のために

より良い職場・地域のために

企業のより持続可能な成長のために

サステナビリティ活動報告

化学物質の管理

製品含有化学物質の管理

化学物質の製造・輸入・管理、環境配慮設計、リサイクルなどに関する法規制や産業界の自主基準の遵守を前提に、自動車業界の統一化学物質リスト(GADSL)に基づき、製品に含有される化学物質の管理に努めています。

化学物質管理の取り組み

● 開発・設計段階

- 各工程でサプライヤーを含めた化学物質の使用状況を確認
- 必要に応じてIMDS※1へ情報を登録

● 生産段階

- PRTR制度※2に基づき毎年届出・報告を実施
- 化学物質の管理基準を社内で定め運用し、VOCなど有害物質の削減活動を推進
- 法律の改正に対しても適切に対応

※1 世界各国の自動車メーカーが環境保全を目的に共同で運営している材料データベース。

※2 特定化学物質の環境への排出量の把握等および管理の改善の促進に関する法律。

キャブ塗装工程の改善による塗料使用量削減

UDトラックスは、いすゞグループの一員として、いすゞ自動車株式会社とUDトラックス間でベンチマーキングを行い、上尾工場における生産性の改善に取り組んできました。

環境負荷物質であるVOCを発生するキャブの塗装工程においても上塗塗料の使用量削減を進め、2022年10月から同社で実績のある「1 Gate工法」を採用。従来は2つの工程で2回塗装していましたが、より効率の良い工程1カ所で塗装するプロセスに変更しました。これによって、該当車種の対象塗料において1台あたりの塗料使用量を従来比30%以上削減し、環境負荷物質であるVOCの使用・排出量も大きく削減しています。

化学物質【PRTRデータ】(上尾工場、2022年度)

単位:kg/年

管理物質番号	化学物質名	取扱量	排出量			移動量 廃棄物	除去処理量	リサイクル量	消費量 (製品)
			大気	水域	土壌				
1	亜鉛の水溶性化合物(化合物群集約物質)	1,062	0	11	0	0	308	0	743
53	エチルベンゼン	16,849	6,600	0	0	0	2,066	8,130	0
80	キシレン(化合物群集約物質)	30,820	9,347	0	0	0	2,208	18,970	0
296	1,2,4-トリメチルベンゼン	2,866	1,682	0	0	0	811	0	0
297	1,3,5-トリメチルベンゼン	4,278	631	0	0	0	116	3,463	0
300	トルエン	6,647	4,874	0	0	0	1,179	119	0

※取扱量、排出量、移動量、除去処理量、リサイクル量、消費量は金属換算した値。

PCB保管状況(上尾工場、2022年度)

	高濃度	低濃度	合計
安定器	1,240kg	0kg	1,240kg
トランス	0kg	0kg	0kg
遮断機	0kg	0kg	0kg
絶縁油	0kg	0kg	0kg
汚染物(ウエスなど)	0kg	0kg	0kg
コンデンサ	20kg	0kg	20kg
合計	1,260kg	0kg	1,260kg

※PCB廃棄物はJESCO(中間貯蔵・環境安全事業株式会社)に登録済み。

※重量は一部推定を含む。

よりスマートな物流のために

よりクリーンな地球のために

より良い職場・地域のために

企業のより持続可能な成長のために

サステナビリティ活動報告

環境マネジメントシステム

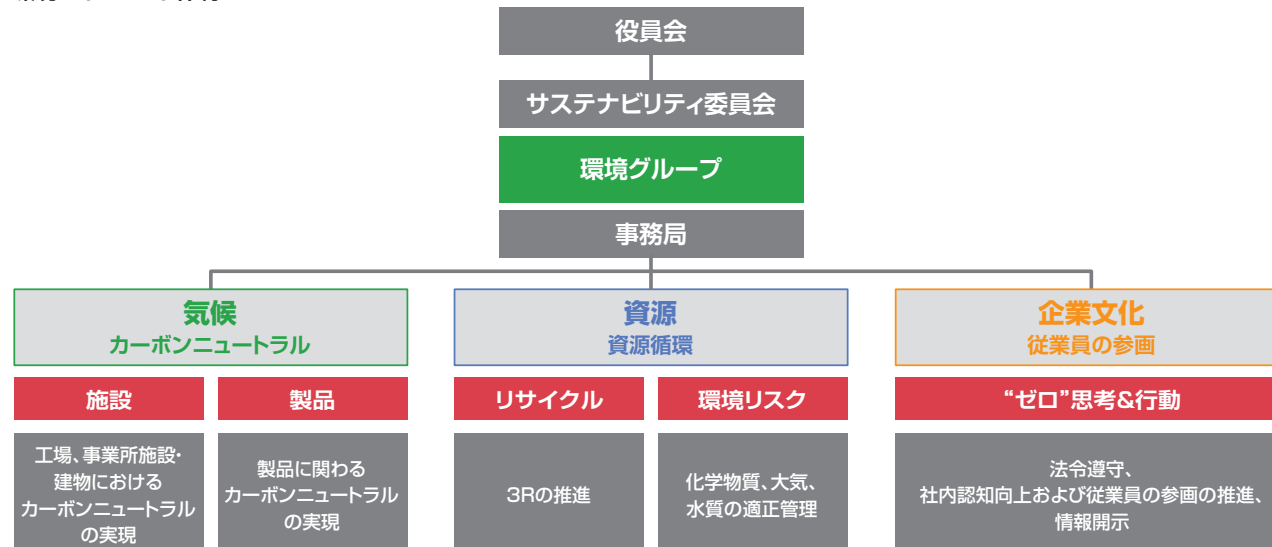
環境方針

One UDとしての環境活動の推進は、物流ソリューションで社会の繁栄を推進し、「Better Life」に貢献するための私たちの使命の重要な役割です。次の原則に基づき環境対策の推進に取り組みます。

- 製品ライフサイクル全体での環境に対する影響を継続的に削減し、持続可能性とカスタマー・サクセスを実現します。

- 従業員一人ひとりが、事業を展開するすべての地域で、環境に配慮する責任を果たし、我々のコアバリューに基づいた行動により信頼を構築します。
- One UDとして、法規制や環境負荷に対する意識を高め、循環型経済の実現とともに企業価値向上の活動に取り組みます。

環境マネジメント体制



ISO 14001 認証の取得

UDトラックスは、環境マネジメントシステムの国際規格であるISO 14001の認証を取得しています。1998年度に上尾工場、2002年度には開発部門でそれぞれ取得しました。その後も順次取得範囲を広げ、2018年度にはISO 14001:2015年改訂規格への移行を完了しています。また、海外サイトにおいては、タイのバンコク工場、南アフリカのプレトリア工場などでも認証を取得しています。

現在は、全社で環境マネジメントシステムを運用することで、環境活動計画で定めた目的・目標の達成をめざしています。



よりスマートな物流のために

よりクリーンな地球のために

より良い職場・地域のために

企業のより持続可能な成長のために

サステナビリティ活動報告

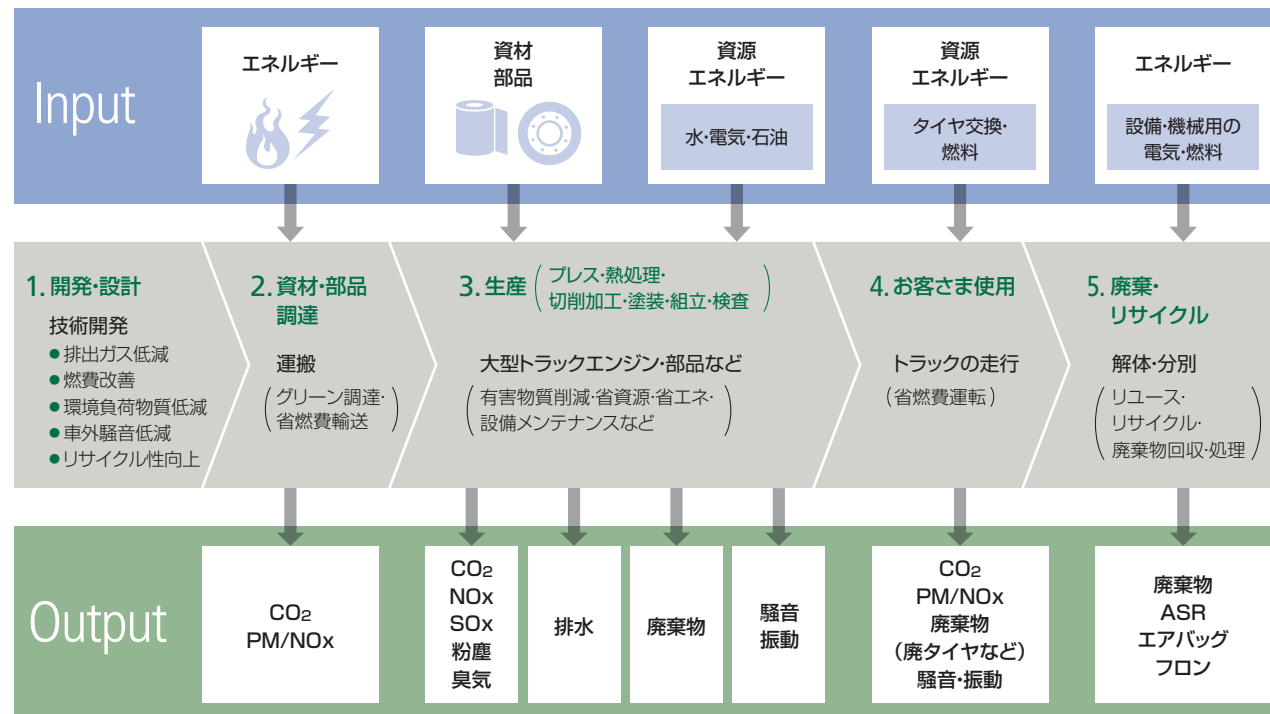
環境マネジメントシステムに対する 内部監査／外部審査

環境マネジメントシステムが適切に機能していることをチェックするために、社内規定に基づく内部監査を毎年定期的に実施しています。監査では、内部監査資格をもつ委

員で構成する監査チームが、環境マネジメントシステムの運用状況、社内基準、環境関連法規制の遵守状況などを確認・評価しています。

また同様に、外部機関による審査も毎年実施し、ISOの認証を継続しています。

マテリアルフロー



主な環境負荷

Input

	2022年度
エネルギー使用量合計(GJ)	412,038
電力使用量(GJ)	227,151
LPG(GJ)	99
LNG(GJ)	0
都市ガス(GJ)	133,744
その他エネルギー(GJ)	51,044
原材料投入量	
鉄(t)	4,967
水使用量(千m ³)	342

Output

	2022年度
温室効果ガス(t-CO ₂)	19,209
廃棄物排出量(t)	2,460
最終埋立処分量(t)	7
有価物量(t)	3,798
再資源化実績	
ASR(%)	97.4
エアバッグ類(%)	94.8
VOC排出量(t)	52
排水量(千m ³)	336

集計範囲

上尾工場と群馬部品センター。ただし「再資源化実績」については、「自動車リサイクル法」に基づき公表した実績。

よりスマートな物流のために

よりクリーンな地球のために

より良い職場・地域のために

企業のより持続可能な成長のために

サステナビリティ活動報告

より良い職場・地域のために 働きがいのある職場・地域貢献



UDトラックスでは、従業員の多様性を尊重すると共に、従業員との対話、教育機会を通じて個々人の能力を最大限に発揮できる職場づくりに注力しています。また、ワークライフバランスに配慮したリモート勤務を拡充するなどして従業員の安全・健康の確保に尽力しています。

さらに、国内外の事業所では当社ならではの知見を活かして、地域の人々と共に交通安全教育、災害支援などに関わる取り組みを推進しています。

よりスマートな物流のために

よりクリーンな地球のために

より良い職場・地域のために

企業のより持続可能な成長のために

サステナビリティ活動報告

多様性の尊重と個人が能力を 最大限に発揮できる環境づくり

ダイバーシティ&インクルージョンの推進

UDトラックスにとって、従業員の多様性とは会社の独自性を創出するものであり、今後の成長過程に必要不可欠なものです。また当社は、職場の従業員一人ひとりが変化を起こす役目を担い、職場環境を改善する企業文化をめざしています。この目標を達成するために、年齢、民族、性別、性的指向、宗教などを含むあらゆる形態の差別に対する従業員の意識を高め、公正で包括的な職場環境づくりに取り組んでいます。

ダイバーシティ&インクルージョン(D&I)の推進に向けて、当社では2014年から毎年従業員を対象にD&Iウィークを開催し、D&Iへの意識向上を目的としたさまざまなイベントを行っています。また、2023年3月8日の国際女性デーには、役員によるパネルディスカッションや、職場での主体性やキャリア開発などをテーマとした女性従業員向けのセミナーを開催しました。

性別にかかわらず包括的な職場づくり

ジェンダーの公平性と女性の活躍推進のため、社内ネットワークを構築し、交流イベントや講演会などを開催して女性従業員を支援しています。2022年のD&Iウィークには、LGBTQ+の問題に関するオンラインパネルディスカッションを開催し、世界中から522名の従業員が参加しました。

社内ガイドラインと規則についても、より包括的なものとなるように、性別に中立な文言に改定しました。

「えるぼし認定」の取得

UDトラックスは、2023年、「えるぼし認定」を取得しました。これは、「女性活躍推進法」に基づき、一定基準を満たし、女性の活躍促進に関する状況などが優良な企業を厚生労働省が認定する制度です。具体的には、「採用」「継続就業」「労働時間等の働き方」「管理職比率」「多様なキャリアコース」の5つの基準で評価されます。

当社は基準をすべて満たしていることを意味する「3段階目」の認定を受けました。

障がい者雇用の促進

UDトラックスは、障がいがある人に包括的で公平な職場環境を提供するため、従業員一人ひとりの理解を深めることを目的とした研修やセミナーを開催しています。

2022年5月および2023年6月には、本社で聴力に障がいがある従業員が講師を務める社内手話教室を開催しました。



よりスマートな物流のために

よりクリーンな地球のために

より良い職場・地域のために

企業のより持続可能な成長のために

サステナビリティ活動報告

ジョブ型雇用の推進

働き方に対する価値観の多様化に対応し、D&Iを促進することを目的として、2015年に日本型の雇用慣行である年功序列を廃止し、ジョブ型雇を導入しています。同時に、新卒採用も職種別による採用を取り入れています。こうした取り組みによって、従業員本人の能力やキャリア設

計と実際の業務のミスマッチを低減しています。

また、誰に対しても公平な就業機会を提供するため、2011年に透明性の高い社内公募制度を導入し、所属する地域、職場、自らの属性にかかわらず、個人が望むキャリアを実現できる環境を提供しています。

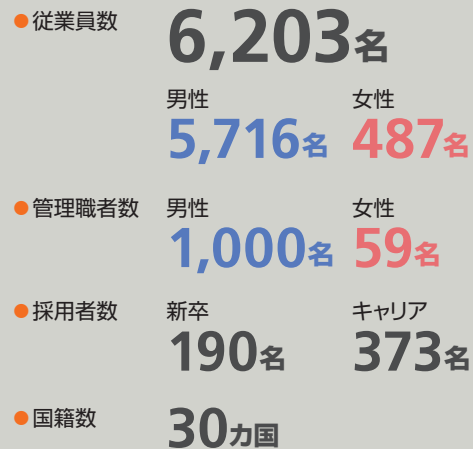
対話による成果・成長・信頼の醸成

UDトラックスでは、上司やチームメンバーとの継続的な対話を促進しています。業務の優先度や進捗確認、改善提案や能力開発などを話し合い、フィードバックを通じて、業務の成果だけでなく、個人の成長や同僚との信頼関係の構築にもつなげています。

そのために、効果的にフィードバックを受けたり与えたりする方法についてのワークショップをはじめ、業務目標の設定や個別育成計画の策定に関する研修を定期的開催するなど、社内コミュニケーションの円滑化に向け、さまざまな取り組みを行っています。

従業員データ(2023年4月1日現在)

国内



アイルランド、アメリカ、イギリス、イタリア、インド、インドネシア、ウクライナ、ウズベキスタン、オーストラリア、カナダ、韓国、シンガポール、スウェーデン、スリランカ、セネガル、タイ、中国、ドイツ、日本、ネパール、パキスタン、バングラデシュ、フィリピン、ブラジル、フランス、ベトナム、ペルー、マレーシア、ミャンマー、ロシア

海外



よりスマートな物流のために

よりクリーンな地球のために

より良い職場・地域のために

企業のより持続可能な成長のために

サステナビリティ活動報告

継続的な学びと成長の支援

UDトラックスは、研修施設や学習管理システムを整備し、従業員の積極的な学びと自己開発を支援する幅広い研修プログラムを提供しています。また、これらのシステムやプログラムは、当社が事業の鍵と考える「リーダーシップ」「ビジネス感覚」「新技術」「起業家精神」の4分野にわたるスキルの向上を重視して設計されています。これにより、従業員は専門知識や能力を開発・研鑽しながら、現在の業務だけでなく将来必要となるスキルを身につけることができます。

さまざまなリーダーシップ開発プログラム

リーダーの育成を目的として、対象者の責務レベルに応じたプログラムや、リーダーの役割ごとに設計したプログラムなどさまざまなプログラムを実施しています。グローバルで展開している自己管理学習メソッドに基づいて自分自身を探求するプログラムには、日本、中国、インド、タイ、シンガポール、アラブ首長国連邦、南アフリカの従業員が参加しています。

従業員の健康と安全

新型コロナウイルス感染防止対策

従業員の健康と安全は、UDトラックスの最優先事項の一つです。新型コロナウイルス感染症に対しても、発生以降、従業員の健康と安全を守るため、さまざまな感染防止対策を講じました。

健康観察、マスクの着用、手指消毒の励行、密閉・密集・密接の回避を徹底するために、「新しい行動様式ガイドライン」「新型コロナウイルス対策ガイドライン」を策定。出社時の検温や、オフィスや食堂におけるマスク着用の徹底、座席間隔の拡大、クリアパネルの設置、定期的なドアノブのアルコール消毒、会議室の人数制限などの対策を行いました。また、在宅勤務をさらに活用することで、従業員が安心して勤務できる環境を整えました。

あわせて、2021年7月からは、上尾本社および南アフリカ、タイ、インド、中国などで、希望する従業員を対象にワクチンの職域接種も実施しました。

2023年5月8日に感染症法上の位置づけが2類から5類に移行したのに伴い、慎重に状況を確認しながら徐々に感染防止対策を解除しています。

ストレスチェックテスト

メンタルヘルス不調の予防のために、従業員のストレスチェックテストを実施しています。結果によって、医師やカウンセラーとの面談を促しているほか、医師からの助言に基づき、業務内容の見直しなどを行っています。

からだチェックイベント

従業員の疾病の予防と健康の維持をサポートするために、2022年から上尾本社・工場勤務の従業員を対象に「からだチェックイベント」を開催しています。体力測定や、血管年齢・骨密度といったからだ機能測定、専門スタッフのカウンセリングを通じて、体力・健康状態の把握と生活習慣の見直しを後押ししています。また2023年には、食生活における野菜摂取状況についても可視化できる測定機器を導入しました。コロナ感染防止のため人数制限を行った2022年は117名、2023年は204名の従業員がこのイベントに参加しました。

よりスマートな物流のために

よりクリーンな地球のために

より良い職場・地域のために

企業のより持続可能な成長のために

サステナビリティ活動報告

働きやすい職場環境づくり

従業員が仕事とプライベートを効率的に両立できるよう、各種制度やポリシーなどを整え、ワークライフバランスの充実を支援しています。

個別の働き方を支援する主な制度・ポリシーなど

● 時間単位の年次休暇取得制度

● 育児、介護のための休業制度

- ▶ 出産休暇制度（一部有給）
- ▶ 配偶者の産後休暇制度（一部有給）
- ▶ 育児休職制度
- ▶ 介護休暇、介護休職制度

● 積立休暇制度

失効した年次休暇を積み立て、傷病、家族の介護・看護、子の育児、配偶者の出産、不妊治療に利用可能

● 利用制限を設けないテレワーク制度、コアタイムを設けないフレックスタイム制度

● 職場での尊厳に関するポリシー（ハラスメント防止策）およびその理解促進のためのeラーニング

● ダイバーシティを考慮した就業規則

性別、年齢、国籍、雇用形態などにかかわらず均等・均衡待遇の確保

育児・介護制度の取得状況

（2022年4月1日～2023年3月31日）

● 育児休業取得率

	出生件数	育児休業取得者数	育児休業取得率
男性	145	83	57%
女性	7	7	100%

※厚生労働省の「育休取得率の公表」に沿った算出方法を適用。

● 介護休職取得者数

1名

従業員の声

育児休業はじっくりと子育てに関わる貴重な時間になりました。

開発部門 プロダクトデザイン担当 眞野 晋一

息子の成長に最初から関わりたいという私の強い希望で、約4カ月間の育児休業を取得しました。もっと男性も育児休業を取るべきだという思いもありました。また職場には、日頃から育児休業だけでなく休暇を取りやすい雰囲気があります。上司に相談した時の「ぜひ取得してください」という言葉も後押しになりました。

取得期間中の私の担当は、お風呂と夜中のミルクやオムツ替えでした。予防接種に行ったり、祖父母に会わせたりできたほか、旅行に行くこともできて、じっくりと子育てに関わる貴重な時間になりました。

子育て支援センターなどによると、男性の育児休業の取得期間は長くても1カ月程度だそうです。こうした状況を踏まえると、「取得率」ばかりを追い求めるのではなく、長期間の休業を取得できる仕組みづくりや環境づくりが重要だと思います。当社がそれを推進・実現することによって、さらに“魅力ある会社”になっていくことを期待しています。



よりスマートな物流のために

よりグリーンな地球のために

より良い職場・地域のために

企業のより持続可能な成長のために

サステナビリティ活動報告

地域社会への貢献

小学生向け交通安全教室

UDトラックスが本社を置く埼玉県は、事業用貨物自動車（軽貨物を除く）による死亡交通事故件数が全国ワースト上位で推移しており、交通事故の撲滅が地域課題の一つとなっています。交通事故を防ぐためには、自動車側の安全性能の向上だけでなく、歩行者の交通安全意識を高める取り組みも不可欠です。

当社は、交通事故の防止はトラックメーカーの責務と考え、上尾市内の小学生を対象に交通安全教室を2016年から毎年開催しています。実施にあたっては展示ホールやテストコースを会場とし、従業員が運営スタッフとして参加するなど当社のもつ知見や設備、人材などを活用するとともに、学習効果を最大化するため同市教育委員会から実施方法や内容、対象学年などについてアドバイスをいただきながら独自のプログラムを開発しています。最大の特徴は「体験」で、児童は大型トラックの実車を用いて死角や内輪差を学びます。また、プログラムの最後には運転席に座り、ドライバーの視界を確認します。引率の先生からは、「動画で見るより、実際に見てやってみることは、子どもの記憶に残る。大変ありがたかった」「トラックに乗れるという貴重な体験に子どもたちがとても喜び、楽しんで学んでいた」などの感想をいただいています。

2020年以降は、1回あたりの児童数を20名以下とし手指消毒をこまめに行うなど、新型コロナウイルス予防対策を講じながら実施しています。2022年までに、2,607名の児童を迎え、延べ232名の従業員がスタッフとして参加しました。



トラックを活用した災害支援プログラム

地球温暖化に伴う気候変動によって、水害や土砂災害、洪水被害などの自然災害の頻発化・激甚化が懸念されています。UDトラックスが本社を置く埼玉県上尾市でも、2019年の台風19号では荒川が氾濫し、約1,000名の市民が避難を余儀なくされるなど大きな被害を経験しました。災害救助や復興支援において当社の製品や人的資本が力になるとの考えからスタートしたものです。

災害時の避難所では、プライバシーの確保が困難な限られた空間での共同生活が心身への負担となることが指摘されています。そこで、小型トラック「カゼット」の荷台部分をプライバシー空間として活用できる災害支援車（バンモデル）を製作。オムツ替え、授乳といったベビーケアや、障がい者や高齢者の身体ケアなどの際に利用可能な2つの個室を設置しており、エアコンや冷蔵庫、水タンク式シンクなども装備しています。また、ソーラーパネルとディーゼル発電機、大容量蓄電池で電気を確保し、通信に欠かせない携帯電話の充電やモバイルバッテリーの貸し出しにも対応します。さらに、これとは別に、被災現場での土のうや被災家財の運搬用途に特化した平ボディモデルも用意しています。



よりスマートな物流のために

よりクリーンな地球のために

より良い職場・地域のために

企業のより持続可能な成長のために

サステナビリティ活動報告

上尾シティハーフマラソンへの協賛

毎年秋に開催される「上尾シティハーフマラソン」は、上尾市を代表するイベントとして長年市民から親しまれ、毎回7,000名を超えるランナーが参加しています。

UDトラックは、地元企業として2013年からこのマラソン大会に協賛し、その成功を応援しています。コロナ禍のため3年ぶりの開催となった2022年11月の大会では、子どもランナーたちへのオリジナルタンブラーやハート形サブレのプレゼントに加えて、当社のブースではクラシックポストカードやミニチュアトラックの組み立てキットを配布しました。また、途中リタイアしたランナーの収容車として、当社所有のバス3台を貸し出しました。この2022年大会には70名を超える従業員もランナーとして参加しました。



地域のスポーツ振興の支援

上尾市は、スポーツを通じた地域の活性化と市民のQOL（生活の質）の向上をめざしてスポーツ推進計画を策定し、住民や地域団体、企業などに協働を呼び掛けています。「Better Life」をパーパスに掲げるUDトラックは、人々のより良い生活の実現に貢献するという理念が合致することから、上尾市民球場のネーミング・ライツ（命名権）を取得し、「UDトラック上尾スタジアム」として市のスポーツ推進計画を支援しています。

同スタジアムは、市民だけでなく高校野球埼玉県大会やプロ野球のイースタン・リーグの公式戦の会場などとして幅広く市民に親しまれています。当社では、ネーミング・ライツの取得を機に、行政と連携しながら地域の活性化につながる活用方法を検討しています。その一環として、2023年5月にはプロ野球独立リーグに所属するチームの試合を共催し、多くの観客の方々に楽しんでいただきました。



上尾高等学校でのSDGs企業説明会

UDトラックは、2022年11月、埼玉県立上尾高等学校で開催された「SDGs企業説明会」に上尾市に拠点をもち企業やグループ10団体とともに参加しました。同校では、これまでも、2年生が「総合的な探求の時間」を使いSDGsへの学びを深めてきました。SDGs企業説明会は、この取り組みを一歩進め、地元企業のSDGs達成に向けたアプローチを知り、SDGsの視点から地域貢献のあり方について考えてもらうことを目的に開催されたものです。

当社は、パーパスのもと社会や物流業界の課題に応える製品・サービスの提供に注力していることや、ESGの取り組みをサプライチェーン全体で推進していることを説明。大型自動運転トラックの実証実験、大型電動トラックの市場投入計画をはじめ、工場での省エネ対策、D&I（ダイバーシティ&インクルージョン）の取り組みなどを具体事例を交えて紹介しました。生徒からは、「トラックをつくることは地球に負荷もかけるけれど、製品を工夫することでSDGsに良い影響を与えていることがわかった」「日本でも約30カ国の社員が働いていて、多様性のある会社であることに驚いた」など、さまざまな感想が寄せられました。



よりスマートな物流のために

よりクリーンな地球のために

より良い職場・地域のために

企業のより持続可能な成長のために

サステナビリティ活動報告

次世代人材の育成

UDトラックスは、上智大学との産学連携として「アカデミックパートナーシッププログラム」を実施しています。

このプログラムは、学生が当社の事業活動を知ることを通じて、物流業界や多国籍企業について知識を深め、将来の職業選択の一助となることを目的としています。また同時に、物流が社会を維持するために不可欠なインフラであることを理解し、社会に対する視野を広げる機会になることも期待しています。

2022年～2023年の秋学期には、当社従業員が講師となり、当社のビジネスモデルをもとにグローバル企業のモノづくりをテーマにした14回の講義を実施しました。また、夏休みの期間中はインターンシップを受け入れており、2022年は5名の学生が参加。開発、IT、人事など多岐にわたる業務体験や、他インターン生や従業員に向けたプレゼンテーションの機会を提供しました。ほかにも、奨学金制度による学生への支援も行っています。

2014年にスタートしたプログラムは同大学からも高い評価をいただき、3年ごとの更新を重ね継続的な取り組みとなっています。2023年4月には新たに3年間の契約を締結しました。



インターンシップ参加者の声

現場を知ること、自分の将来をより深く、具体的に考えることができました。

上智大学 理工学部 機能創造理工学科 3年(参加当時)

2022年8月29日～9月9日までの2週間、インターンシップに参加しました。私は自動車部に所属していることから自動車産業に興味をもっており、また、自分の学んでいる学問やこれからの研究がどのように実際の現場で運用されるのか包括的に学びたいと思い参加を決めました。

物流部門に配属され、同部門を紹介する約15分のビデオを作成することを最終目標としました。部門内の4つの部署を物流の上流から下流の順に話を聞き、UDトラックスにおける物流の果たす機能について学びました。在庫管理端末を使って業務を体験したり、工場内での部品の移動について実際に工程を見ながら説明を聞いたりしました。

2週間の実習を通して、自分のこれまでの学びが「頭でっかち」になっていたことを痛感しました。現場でのオペレーションは理論よりももっと複雑で、物流以外のさまざまな要因を考慮する必要があります。理論を基盤としたうえで現場での実際の運用を考えるのが物流部門の役割だとわかりました。

インターンシップ参加前から大学院への進学は決めていましたが、将来どのような仕事に就くかはほとんど決めていませんでした。今回インターンシップに参加したことによって、製造業に就きたいと強く思うようになりました。実際にモノをつくって運んで売るというプロセスは、いくらITが進んでもなくなることはないし、人間が物質的な存在である以上、その暮らしを支えるものが必要だからです。そのために、専門性をより高めて自分の能力が社会へどのように還元できるか考え続けたいと思います。



インターンシップでの最終発表

よりスマートな物流のために

よりクリーンな地球のために

より良い職場・地域のために

企業のより持続可能な成長のために

サステナビリティ活動報告

実習用エンジンの寄贈

UDトラックスは、自動車整備士を養成する岐阜県の中日本自動車短期大学と愛媛県の日産愛媛自動車大学校に対して、2022年7月と8月に実習教材として大型トラックのエンジン「GH11」を各1基寄贈しました。

自動車の保守・整備に従事する自動車整備士は、物流の安定稼働において重要な役割を担っていますが、近年、少子化や若者の車離れなどの影響から人材不足が深刻化しています。当社は、将来の物流を支える人材の育成に貢献すべく、従来から自動車整備士の養成校に教材用のエンジンなどを寄贈しているほか、今後は産学連携授業などを通じて大型車について学習する機会を提供することも計画しています。今回エンジンを寄贈した2校は、自動車業界で活躍する人材を輩出し、当社でも多くの卒業生が活躍しています。しかし一方で「在学中に大型車について学習する機会は少なかった」という声もあることから、一人でも多くの学生に大型車の最新技術に触れてもらうための取り組みを継続しています。



よりスマートな物流のために


よりクリーンな地球のために

より良い職場・地域のために

企業のより持続可能な成長のために

サステナビリティ活動報告

企業のより持続可能な成長のために



UDトラックスは、「スマートロジスティクス」「環境」「人材・職場／地域社会」のサステナビリティへの取り組みを核に、業務効率や生産性の向上、デジタル化を通じたビジネストランスフォーメーション、コーポレートガバナンスの強化などを通じて持続的に成長することで、業界最高水準の業績をめざします。そして、得られた利益によって物流業界の価値創出に貢献すると共に、UDトラックスの成長のためにさまざまなステークホルダーの未来に再投資することで、事業の持続可能性をさらに高めていきます。

よりスマートな物流のために

よりクリーンな地球のために

より良い職場・地域のために

企業のより持続可能な成長のために

サステナビリティ活動報告

デジタル化を通じた ビジネストランスフォーメーション

事業活動全体でDXを推進

UDトラックスは、デジタルトランスフォーメーション(DX)はITの変革にとどまらず、業務変革(ビジネストランスフォーメーション)の一部であり、企業文化の変革をめざすものであると位置づけています。そして、物流の高度化や、業務効率や生産性の向上、より良い職場環境の実現には、データを基盤としたDXが不可欠であると考えています。

UDトラックスでは、先進的なITツールを導入するとともに、ビッグデータの蓄積と活用に注力しています。生産計画や品質管理から販売、サービスに至るまで、多岐にわたる情報を使いやすい形で一元的に整理・分析し、経営に反映しています。また、それらのデータを従業員にも公開することで、ビジネスに関わるアイデアの創出や、経営層と従業員のコミュニケーションの活性化にもつながっています。

同時にDXの推進によってリモートワーク体制を整備することで、世界各地からの人材獲得が可能になり、人材の多様性や社員の能力向上の面でも成果が生まれています。



エンジニアリングチェーンと サプライチェーンのデータ連携

UDトラックスは、エンジニアリングチェーンとサプライチェーンのデータ連携を加速する新たなシステムを構築しています。製品に関するデータの活用や情報共有を進めることで、さまざまなリスクに対して強靱なサプライチェーンを構築するとともに、モノづくりの中核であるエンジニアリング能力の向上に取り組んでいます。

エンジニアリングチェーンは、製品の品質とコストの約8割を決定すると言われてしています。そこで、当社は開発・設計段階の効率と生産性を高めるため、開発部門が3D CADで構成したデータ情報と生産部門で使用する部品表などのデータを統合したデジタルモデルを構築。双方がスムーズに連携することにより、開発・設計段階における問題点の早期発見、品質向上、後工程でのやり直しによるムダの排除などを可能にしています。また、生産部門と営業部門においても、生産計画や品質管理に関する情報、営業社員の商談の進捗状況などをビッグデータとして一元管理するプラットフォームを整備し、両部門間の製品データやコミュニケーションの連携を実現しています。

今後は、経営環境の不確実性が高まるなか、想定外の変化が発生した場合の対応力の強化を目的に、組織・企業間におけるデータ共有インフラを整備する計画です。新たに工場IoTプラットフォームと、開発、生産、販売、アフターマーケット領域におけるAR(拡張現実)ソリューションを採用し、デジタルデータの利用領域を拡大します。将来的には、エンジニアリングチェーンとサプライチェーンのシーム

レスなデータ連携と双方向のコミュニケーション環境をサプライヤーやお客さまなどにも展開することで、強靱なサプライチェーンの構築とお客さま起点でのビジネスモデルの変革にもつながる新たな価値創造をめざします

人事関連業務のデジタル化

多様な個性を尊重することで、固定観念にとらわれない革新的で柔軟なアイデアを創出するため、社内コミュニケーションのデジタル化やアドレスフリー化を進めています。また、新型コロナウイルス感染症の拡大によって働く環境が大きく変化し、書類による申請対応など従来型の労務管理が難しくなっていることから、デジタル化を軸とした業務環境の改善も図っています。

その一環として、クラウド型の人事労務ソリューションを採用し、人事関連業務のDXに取り組んでいます。これによって労務管理業務や給与計算業務などの管理・オペレーションをデジタル化し、多様化する働き方に対応する職場環境の整備や戦略的な人的資本管理を加速させています。

よりスマートな物流のために

よりクリーンな地球のために

より良い職場・地域のために

企業のより持続可能な成長のために

サステナビリティ活動報告

コーポレートガバンスの強化

経営・業務執行体制



代表取締役会長
伊藤 公一



代表取締役社長
国内販売部門
シニアバイスプレジデント
(兼任)
丸山 浩二



取締役
國房 太郎



監査役
新井 義直



最高財務責任者(CFO)
人事、法務・コンプライアンス部門
シニアバイスプレジデント
(兼任)
饗場 哲也



製品戦略、
ブランド・コミュニケーション部門
シニアバイスプレジデント
(兼任)
長谷川 真也



生産改善部門
シニアバイスプレジデント
岡嶋 剛也



デジタルソリューション・IT部門
シニアバイスプレジデント
何 慶輝



海外販売部門
シニアバイスプレジデント
ミシェル ジャック



生産部門
シニアバイスプレジデント
笹岡 博



調達部門
シニアバイスプレジデント
林 修一



物流部門
シニアバイスプレジデント
中矢 利久



開発部門
シニアバイスプレジデント
ナカノ ダグラス



品質保証部門
シニアバイスプレジデント
梅田 正幸

よりスマートな物流のために

よりグリーンな地球のために

より良い職場・地域のために

企業のより持続可能な成長のために

サステナビリティ活動報告

サステナビリティ推進体制

会社全体でサステナビリティの取り組みを推進していくために、2021年12月、役員会のもとに「サステナビリティ委員会」を設置しました。同委員会は、UDトラックスのサステナビリティの重点領域（P4参照）にESGの観点を通じた「環境グループ」「社会グループ」「ガバナンスグ

ループ」の3つのグループによって構成されています。

各グループでの組織横断的な議論や提案は4半期ごとに役員会に報告し、会社経営に反映しています。また、主要課題について具体的に検討・対応するために、各グループの傘下に分科会を設置しており、現状の把握や目標の設定、活動計画の策定、進捗管理などを行っています。



UDトラックス行動規範

法令を遵守し倫理的にビジネスを遂行するために、すべての従業員が実践すべき基本原則や行動を「UDトラックス行動規範」に定めています。



UDトラックス行動規範の重要原則

- **お互いを尊重する**
相互尊重／差別をしない／安全で健康的な職場／環境
コンプライアンス／結社の自由／労働時間と報酬／現代の奴隷制と児童労働
- **公正かつ合法的にビジネスを獲得する**
製品に関するコンプライアンス／公正な競争／贈答品、接待などに関する腐敗の防止／貿易に関するコンプライアンス（輸出入）／マネーロンダリング防止
- **事業活動と個人的な利害を切り分ける**
利害の衝突／政治活動／インサイダー取引
- **企業情報と資産を保護**
機密情報／知的財産／物理的資産と金融資産／個人情報保護
- **透明性、そして責任感を持ってやり取りを行う**
経理と報告

よりスマートな物流のために

よりクリーンな地球のために

より良い職場・地域のために

企業のより持続可能な成長のために

サステナビリティ活動報告

コンプライアンス

コンプライアンスは、UDトラックスの企業文化と価値観を形づくる重要な要素であり、企業には誠実かつ倫理的で責任ある行動が求められているという認識のもと、すべての従業員を対象に啓発活動を行っています。従業員一人ひとりが高い倫理観をもって自ら正しい行動を選択できるよう、さまざまな改善活動を推進しています。

また、2021年4月のいすゞグループへの移行に伴い、いすゞ自動車株式会社のコンプライアンス体制を参考に当社のポリシーやガイドラインを改訂し、競争法、贈収賄、輸出入管理、個人情報保護など重要なコンプライアンスリスクへの対応を強化しています。あわせて、コンプライアンス違反のおそれがある状況に適時・適切に対応できるよう内部通報制度を設けるとともに、Webによる通報を可能にするなど、利用しやすい仕組みの整備にも注力しています。

さらに、定期的に従業員を対象としたコンプライアンス意識調査を実施し、コンプライアンスに対する意識の向上を図っています。その結果を受け、ハラスメント研修、コンプライアンス研修を実施するとともに、コンプライアンス案件情報を監査部と共有し、再発防止に取り組んでいます。

下請法の遵守

UDトラックスは、サプライヤーとの健全な関係を維持するために、下請代金支払遅延等防止法(下請法)の遵守に努め、下請法の適用対象、遵守事項を確実に運用できるよう社内のルール化などを進めています。

その一環として、社内教育や支払方法の変更、対象部門に対する業務監査を定期的実施しています。また、サプライヤーとの中立的な相談窓口として「お取引会社相談窓口」を法務部門内に設け、コンプライアンスに関するサプライヤー各社からの相談を受け付けています。

ERM(Enterprise Risk Management)

全社横断的にリスクマネジメントの強化に取り組んでいます。経営上・事業遂行上のリスクを定期的に特定・評価するとともに、それらを適切に管理し、問題の発生の防止に努めています。また、こうした取り組みをマネジメントに随時報告することで、常にリスク管理を徹底しています。

リスク管理の対象は、従業員やビジターを対象とした安全の確保、事業に関する秘密情報や資産の保護、自然災害や火災など緊急事態への対応、災害復旧の支援など多岐にわたります。また、2022年度からは、仕入先を含むサプライチェーンへの対応、生産および製品品質の確保、事業所を起因とする環境や気候変動への影響にも範囲を拡大しています。

起こりうるリスクを想定し、未然に問題の発生を防ぐことによって、より安心・安全な事業環境の実現に取り組んでいます。

情報セキュリティ

UDトラックスの「セキュリティポリシー」に基づき情報セキュリティの確保に努めています。また、このポリシーを反映した情報セキュリティガバナンスの構築を進めています。

具体的には、災害によるシステム停止を防止するために、本社と耐震性の高いデータセンターの2拠点で電子情報を運用管理するとともに、外部攻撃などによる電子情報の漏洩防止対策を強化しています。また、全国のディーラーを対象に情報セキュリティの強化に向けた教育を定期的実施しています。

これらとともに、「プライバシーポリシー」に従い、個人情報の適正な管理・保護を徹底しています。

よりスマートな物流のために

よりクリーンな地球のために

より良い職場・地域のために

企業のより持続可能な成長のために

サステナビリティ活動報告

サプライヤーとのパートナーシップ

パートナーシップの強化

社会の大きな変化や加速化する技術革新のなかにおいても、お客さまのビジネスニーズに応える先進的で優れた品質の製品とサービスを提供することが重要です。そして、バリューチェーン全体を通じて社会の持続可能性の実現に貢献することは、UDトラックスのパーパスである「Better Life」の理念にもつながります。

こうした認識のもと、UDトラックスは、持続可能性を品質や性能、納期、コストなどと同等に調達プロセスにおける主要な基準の一つと位置づけています。また、サプライヤー各社と当社の考え方や行動指針などを共有し、より良いパートナー関係の構築をめざしています。そのために、サプライヤー各社にお願いしている取り組みを「UDトラックスサプライヤー行動規範」として開示するとともに、サプライチェーン全体のサステナビリティ課題への取り組みを強化しています。

2021年に発足したサステナビリティ委員会では、環境活動や取引慣行の見直し、人権問題を含むサプライチェーンの健全化など、自社およびサプライヤーにとっての重要課題を抽出し、対応を進めています。

サプライヤーへの要請事項

● UDトラックスサプライヤー行動規範の遵守

人権や環境対応など、当社のサステナビリティ基準への準拠を要請

● グリーン商品の製造

サプライヤーの取り組みをSelf-Assessment Questionnaire (SAQ) で確認

● 第三者機関によるサステナビリティ認証の取得

● 使用禁止原材料などの不使用

国際的な原材料データベースに基づき使用禁止原材料などの有無を確認

● CO₂排出量の把握と削減

新規プロジェクトのサプライヤー選定プロセスにおいて、事業継続計画、環境、倫理の自己評価を実施

紛争鉱物に対する取り組み

UDトラックスは、錫、タンタル、タングステン、金、コバルトといった紛争鉱物を責任ある持続可能な方法で調達するよう努めています。サプライヤーには、サプライヤー行動規範の「第3条 責任ある原材料の調達」に基づき法令の遵守を求めています。また、高リスク地域から紛争鉱物を調達する際は責任ある方法をとるよう要請しています。

UDトラックについて

UDトラックのさまざまな情報は、こちらからもご覧いただけます。

- ・Webサイト <https://www.udtrucks.com/japan>
- ・Facebook <https://www.facebook.com/UDTrucksJP>
- ・YouTube <https://www.youtube.com/user/udtrucksvideos>



1935年の創立以来、UDトラックは日本の商用車メーカーとして、物流の現場に携わってきました。

現在は世界約60の国と地域において、お客さまのニーズに応えるより良いトラックとサービスの提供に取り組んでいます。

会社概要 (2023年4月1日現在)

会社名	UDトラック株式会社
創立	1935年12月1日
所在地	埼玉県上尾市大字壺丁目1番地
資本金	775億円
従業員数	6,203名
主な事業	国内事業 <ul style="list-style-type: none"> ●大型トラックの開発、製造、輸出、販売 ●中小型トラックの販売 ●自動車用部品の製造、販売 ●トラック・バスの整備、補修部品などの販売 ●ボルボブランド製品の輸入、販売 海外事業 <ul style="list-style-type: none"> ●新興国向けの大・中・小型トラックの開発、製造、販売 ●自動車用部品の製造、販売 ●トラック・バスの整備、補修部品などの販売
国内拠点	本社・上尾工場、部品センター(群馬、北海道地区、山陽地区、九州地区)、ボルボ・ペンタオフィス
国内グループ会社	株式会社ニューメック
海外拠点	UDトラック シンガポールオフィス、UDトラック タイ、UDトラック マレーシア、UDトラック 中東・北アフリカ、UDトラック サウスアフリカ、UDトラック ラテンアメリカ、UDトラック ノースアメリカ、UDトラック インディア、工場(タイ、南アフリカ)、部品センター(シンガポール、南部アフリカ地域、中東バイ地域)

沿革

年代	会社の歩み	製品の歩み
1930	1935 埼玉県川口市に日本デイズル工業(株)を創立	1938 当社初のディーゼルエンジン開発 1939 ディーゼルトラック1号車完成
1940	1942 鐘淵デイズル工業(株)に社名変更 1946 民生産業(株)に社名変更	
1950	1950 民生デイズル工業(株)に社名変更	1955 独自技術による「UDエンジン」誕生 1958 日本初積載量10トン超「6TW型」誕生
1960	1960 日産ディーゼル工業(株)に社名変更 1962 上尾工場の操業開始	
1970		1975 中型トラック「コンドル」誕生
1990		1990 大型トラック「ビッグサム」誕生
2000	2007 ボルボグループに加わる	2004 フラッグシップ大型トラック「クオン」誕生
2010	2010 UDトラック(株)に社名変更	2013 新興国向け大型トラック「クエスター」誕生 2014 小型トラック「カゼット」誕生 2017 新型「クオン」「コンドル」発売、新興国向け中型トラック「クローナー」、小型トラック「クーザー」誕生
2020	2021 いすゞグループに加わる	

取り扱い製品



UD TRUCKS

UDトラック

大型トラック「クオン」、中型トラック「コンドル」、小型トラック「カゼット」および新興国向け大型トラック「クエスター」、中型トラック「クローナー」、小型トラック「クーザー」を展開。

V O L V O

ボルボトラック

ボルボブランドの大型トラックの輸入・販売。日本市場における取り扱い製品は、オンロードのボルボFH4x2、6x4トラクター、6x2、6x4リジッド、オフロード(構内専用)のFMX6x4、8x4リジッド。

V O L V O P E N T A

ボルボ ペンタ事業部

ボルボ・ペンタブランドの産業、船用エンジン。輸入と各OEMへの搭載技術支援。日本市場での主力製品はフォークリフトなどに使用される産業用エンジン、レジャーボート用高級船用エンジン。

※UDトラックはいすゞ自動車株式会社のグループ企業です。いすゞ自動車株式会社について詳しくはWebサイト(<https://www.isuzu.co.jp>)をご覧ください。